

JAPAN SMALL ANIMAL VETERINARY ASSOCIATION *No.185 Jul. 2025*

JSAVA NEWS

一般社団法人 日本小動物獣医師会

〒105-0004 東京都港区新橋5-12-2 鴻盟社ビル5階
TEL. (03) 5843-7548 FAX. (03) 5843-7549

<https://jsava.org>



—メールアドレス登録のお願い—

様々な情報をお伝えするとともに、会員の皆様からもご意見を頂いて参りたいと思っております。

メールアドレスの登録はホームページの会員ページよりお願いいたします。



<https://jsava.org/acmailer3/regist.html>
当会メルマガのご登録をお願いします。

獣医師倫理綱領

獣医学および獣医療は、動物の疾病の治療ならびに動物の健康の維持と増進を図ることにより、人の健康で文化的な生活の確保と福祉に寄与するもので、獣医師はその責務の重要性を認識し、自らの専門知識と技能を人のため、社会のために役立てるものである。

1. 獣医師は動物の生命を尊重し、人との関わりを深く自覚することによって、平和な社会の発展とより良い環境の確立に努める。
2. 獣医師は職務上の本分を自覚することによって、人の健康で文化的な生活の維持と福祉の増進に努める。
3. 獣医師は動物福祉の精神の基に、動物の苦痛の緩和と身体的障害の軽減に努める。
4. 獣医師は自らの職務に誇りと責任を自覚し、良識ある社会人としての人格と教養を高めるように心掛ける。
5. 獣医師は常に獣医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす。
6. 獣医師は適切かつ適正な獣医業に心掛けるとともに、互いに尊敬し、連携と協調の下に公正な獣医療の発展に努める。
7. 獣医師は人と動物の絆を尊重し、誠実さとやさしさをもって獣医療の内容をよく説明し、信頼を得るように努める。
8. 獣医師は獣医学と獣医療を通して、社会の発展に尽くすとともに、法令の遵守および法秩序の形成に努める。

CONTENTS

●会長挨拶	4
●新役員挨拶	5
●第17回定時社員総会報告	9
●令和6年度 下期監査報告	11
●令和6年度 第6回理事会報告	12
●令和7年度 第1回理事会報告	14
●令和7年度 第2回理事会報告	16
●令和7年度 臨時理事会報告	17
●委員会報告	
○獣医事委員会	18
○学術委員会	18
○動物愛護・社会福祉委員会	19
○広報委員会	20
●学術企画	
○常同障害、転位行動	23
○第1回 起源不明髄膜脳脊髄炎（MUO）という疾患が登場した背景	30
○帰脾湯：心と胃腸を整える漢方薬	37
●インフォメーション	
○補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）に関するアンケート	41
○本会推薦同意書	45
○求人広告	45
○新規入会会員	47
○令和6年度下半期補助犬募金協力病院一覧	48
●編集後記	49

会長就任にあたってのご挨拶

一般社団法人日本小動物獣医師会
会長 佐藤 順子

この度、第17回定時社員総会において代表理事（会長）に選出されました佐藤順子です。所属は公益社団法人宮城県獣医師会です。

日本小動物獣医師会のお仕事に就いてどのくらいになるのだろうと思い「創立40周年記念誌」を開いてみました。事務局が青山から港区芝2丁目に移転したのが平成13年10月。この時私はすでに生涯教育・卒後研修委員会の委員でしたので、もう24～25年は本会の理事、委員を務めさせて頂いています。

今期理事に立候補するにあたり、私は「時々刻々変化する開業獣医師を取り巻く環境、日本小動物獣医師会に求められていることを検証し、従来の委員会活動を見直してより状況に即した活動が出来るよう努めたい。2年の間隔で行われる役員改選、委員会の再編によってどうしても生じてしまう委員会活動の停滞をより少なくし、活動の継続が順調に進むよう引継ぎ、申し送りの方法を検討したい」を抱負として挙げました。法人法の改正により理事、委員の任期が3年から2年になってからは特にスムーズな事業の継続は毎回の懸案になっています。今回業務執行理事としてこの点の改善に努め、各理事の方々が順調に委員会活動に就いていただけるようにしたいと思っています。

現在本会は、創立以来の重要な事業である「獣医事」、コロナ禍を経て大きく活動方針が変化した「学術」、登録された方が2000人を超えた「動物診療助手」を大きな柱として活動しています。今年度「獣医事」は会員の皆様のニーズに的確かつ迅速にお答えできるような体制の構築を行っていきたくと思っています。又「学術」は、昨年度までオンラインセミナーの実施とJSAVA NEWSへの学術記事の掲載、この二つの活動を行ってききましたが、今年度はこれに加えて「薬用量マニュアル」の改訂を行っていきます。「薬用量マニュアル」は約5年を目処に改訂をしていますが

第5版発刊から令和8年で5年となります。今までこの改訂はプロジェクトとして行ってきましたが、第6版は委員会の中に改訂担当のチームを作って取り組みたいと思っています。「動物診療助手」は令和8年3月をもって特例措置による申請を終了し、その後は大学と専門学校を卒業した方を対象にした試験による認定に移行します。会員病院に勤務している方で登録が未だの方は特例措置期間中に申請して頂けますようお願いいたします。「動物愛護福祉」「災害対策」、はそれぞれに

身体障がい者補助犬に対する活動、被災病院へのお見舞い・BCP作成の等の活動を行ってききましたが、今年度は共同してアニマルウェルフェアの観点から、災害時の同行避難等動物病院の役割についても考えていこうと思います。

多方面に豊富な人脈を持ち行動力のある長崎前会長の後を受けて代表理事（会長）の任に就くことは、非力な私にとっては甚だ荷が重く思えますが、20数年にわたり本会の理事、委員を務めて得た経験を活かして今後2年間尽力してまいります。会員皆様のご協力とご指導を宜しくお願いいたします。



新役員挨拶

【副会長】 渡邊 言之

日本小動物獣医師会理事を務めさせていただく様になって4期目となりました。

最初はよく分からない中で、先輩方に教えていただきながら何とか仕事をしてまいりました。

今まで総務委員・総務委員長・獣医事部長・副会長を務めさせて頂きましたが、本会の各委員の仕事は、地方獣医師会の委員会等の仕事と違って、少し特殊に感じています。大きな組織ですので当たり前かもしれませんが、細かい決まり事が多く、慣れるまでかなり大変でした。

今期は再び副会長と、学術部長の兼任を仰せ付けられましたので、新しい方や若い方が次に同じ立場に立った時に、もっと分かりやすくスマートな委員会運営・組織運営を行えるように、微力ではありますが少しずつ変えられるところは変えながら、若い方にも興味を持っていただき、本会に入会していただける様尽力したいと思います。

学術委員会では、ここ数年はセミナーを中心にかなり活発に活動しており、WEBでのセミナーも数多く配信しております。今の時代にあったセミナーの開催方法だと思いますし、多くの方が参加しやすいかと思っておりますので、今期も同様にオンラインのセミナーを中心に、活発に活動してまいります。

今期2年間、全力で活動して行きたいと思しますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

【副会長】 岩西 正雄

この度、3期目の理事、並びに副会長を務めさせていただくことになりました岩西です。ひしひしと、責任の重大さを感じております

そして、獣医事部長として、引き続き獣医事対策委員会を担当させていただきます。会員の先生

方の病院内、周囲でのお困りごと、昨今問題になっておりますハラスメント、雇用条件など、お気軽にご相談いただければ幸いです。今期も役員一丸となって頑張りますのでご指導、ご協力よろしく願いいたします。

【副会長】 鈴木 淑剛

この度、副会長ならびに事業部長を拝命いたしました（公社）静岡県獣医師会の鈴木淑剛と申します。本会では、これまで理事として通算4期にわたり、災害対策、動物愛護・社会福祉、広報といった分野で職務に携わらせていただきました。

現在、私たち小動物獣医療の現場は、まさに変革の波の中にあり、その変化は今後も加速していくものと思われれます。このような状況を踏まえ、日々の業務への対応はもとより、5年後、10年後の本会のあり方について、委員会のみならず、会員の皆様とともに築き上げていきたいと考えております。

そのために、各委員会がより活動しやすい環境を整備し、会員の皆様からいただく貴重なご意見やアイデアに対して、委員会・理事会が一丸となって真摯に取り組んでまいります。つきましては、会員の皆様からのご意見やご提案などを、ぜひお寄せいただけますようお願い申し上げます。

微力ではございますが、その任に全力で取り組んでまいる所存です。今後とも、ご理解ご協力とご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

【総務部長】 松木 正信

総務部総務部長をさせて頂く松木正信です。一般社団法人日本小動物獣医師会理事は5期目となります。今期は総務部長としての返り咲きとな

ります。

総務部では今期の活動として、会務運営、規約整備、会員増強(正会員、学生会員)、地方組織(団体)の検討と個人会員の在り方、情報の共有化(入会後の利活用方法、愛玩動物看護師等の動物病院スタッフを含めた会員診療施設の全会利用促進)等の検討を柱に行いたいと思います。

現在、獣医界を取り巻く環境は大きく変化してきました。動物飼育環境、愛玩動物看護師等にも対応していかねばなりません。

総務部は会長の諮問機関でもあることから会長の意向を踏まえ会員の皆様からの声をお聞きしながら努めて務めていきたいと思っています。

ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

【理事】稲庭 瑞穂

この度、(一社)日本小動物獣医師会の理事を拝命させていただき大変光栄に思っております。

私が理事に就任するのは、2期前に3期にわたって理事を務めさせていただいて以来となります。当時は災害対策を主に担当していました。

これらの経験してきたことを生かしながら、本会の発展のために少しでも皆様のお役にたてれば良いかと思っています。よろしくお願いいたします。

【理事】加藤 憲一

今回で4期目となります、千葉の加藤です。今期も理事として学術委員会を担当をさせていただくことになりました。

今期の学術委員会は薬用量マニュアル第6版の作成業務も加わったため、学術委員会を形式上2つに分け、安藤理事と2人で委員長となり運営することになりました。

委員は頼りになる前期のメンバーが引き続き就任していただきましたので、セミナーも途切れることなく開催することが出来るかと思っています。

徐々に蓄積されてきた、本会の財産でもある

ホームページの学術動画のアーカイブページは欲しい情報に辿り着きやすいように安藤理事の元、編成をしていく予定です。

また、薬用量マニュアルは本会の最重要事業の一つだと認識しておりますので、今期中に第6版を発刊出来るよう努めて参る所存です。

私は安藤理事や委員の先生方におんぶに抱っこの状態ですが、セミナーや薬用量マニュアルの作成が円滑に進むよう、尽力したいと考えております。

会員の皆様のご要望にも出来る限りお答えしたいと思いますのでご意見賜れば幸いです。

今期もご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

【理事】西川 清孝

前期は監事として監査会、理事会で、会員の皆様に微力ではございますが貢献させていただきました。

今期は新人理事として獣医事対策委員長に就任させていただきました。この2年間は本会顧問弁護士と連携を図りながら、本会ならびに会員の皆様のために尽力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

【理事】林 健一

理事会推薦で理事候補者となり、第17回定時社員総会で理事に選任されました。今まで、6期12年理事として副会長、専務理事、総務部長、獣医事部長、獣医事対策委員長、動物診療助手認定委員長を務めてきました。今期は、広報委員長を拝命しましたので、理事会・委員会での協議、事業案内等をJSAVA NEWSで迅速にお伝えすると共に、学術委員会担当の学術記事等、会員に有用な情報を提供していきたいと思っています。また、メルマガ配信により迅速な情報提供に努めていきたいと思っています。本会ホームページの運営も担当しますので、一般の方への小動物獣医師PRにも力を入れて行く所存です。

会員の皆様からのJSAVA NEWS、メルマガ、ホームページに関するご意見等がありましたら広報委員会宛に何時でもご連絡ください。会員の皆様のご協力・ご指導により本会の発展に寄与できればと思っていますので、よろしく願いいたします。

【理事】安藤 武樹

第2 学術委員会の委員長を拝命しました安藤武樹です。学術委員会では、加藤委員長と協力して獣医学術及び獣医療の専門知識や技能の普及事業を通じて皆様の明日の診療に役立てるように活動しています。

第1に会員のニーズに寄与する。第2に本会の目的に寄与する。第3に委員の情熱に答えたいと思っています。私たち第2学術委員会ではWebセミナーを中心とした研修・講習会の開催、関連学会・地方会との連携推進、海外学術情報に関する事業を主に担当したいと考えています。全国の皆様！お考えをお教えてください。どこにもない私たちの為の小動物獣医師会を作りましょう。

【理事】中山 聡太郎

前年度より引き続き総務委員長をさせていただき中山聡太郎と申します。

総務委員会は今年度も各種規程等の変更・作成、総会・理事会等の会務運営を実施いたします。

会員増強につきましては昨年にも増して正会員・準会員・賛助会員の入会促進策等の検討を行います。

会員の皆様からのご意見等をいただきながら会務運営に反映させていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【理事】川野 悦生

前年度に引き続き災害対策委員会の委員長を務

めさせていただきます、広島県の川野です。

当委員会の委員の方々が、各県の災害対策のエキスパートな先生方で大変人材に恵まれた環境で、仕事をする事かできました。最近では。毎年のように各地で災害が発生し、その度に被災会員の安否確認とお見舞金の送付を迅速にすることを心掛けてまいりました。また委員皆様の努力により、本会オリジナルBCP（事業継続計画）を作成することができました。

JSAVA NEWSを通して会員に配付しましたが、利用、活用方法などを具体的に説明する機会があれば、全国に拡散でき災害時にお役に立てると確信しております。災害は、時間、場所、規模の大きさもわからず発生します。備えあれば憂いなしです。これからも会員皆様の災害問題にお役に立てるよう取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【理事】松本 明彦

広島県獣医師会小動物獣医師会の松本明彦と申します。引き続き、理事として活動させて頂くことになりました。

2期目になる今回の人事でも、動物愛護・社会福祉委員会の委員長を拝命いたしました。微力ながら、これまでの委員会活動の歴史と功績を踏まえて、委員会に出てください先生方のお力をお借りして、未来志向で委員会活動を展開してまいりたいと考えております。お会いした時には、広島弁、特に仁義なき戦いが映画化された町で育ったため、言葉が若干怖い印象を与えますと思いますが、懐っこくアクティブな性格です、ご支援ご協力の程重ねてよろしく願いいたします。

我々の委員会の使命は、身体障がい者補助犬助成普及啓発規程並びに規程施行細則に沿った事業が大きな柱になりますが、同じ事業部の災害対策委員会とも連携をしながら、広く動物愛護に関する事業も計画して参りたいと考えております。また、我々の委員会事業は、補助犬ユーザー様をはじめとして、外部の方々との交流やお付き合いをしながら、当会を支えていく委員会である事も肝

に銘じて、活動に取り組んでまいります。

最後に、会員の先生方が、日本小動物獣医師会会員で良かったと思っただけのように微力ながら活動してまいります。

【理事】村井 厚士

広島県小動物開業部会の村井厚士と申します。

社会の中の日本小動物獣医師会で在れるよう努力いたします。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

【監事】富山久利

この度の社員総会において、私、富山をご承認頂き、会員の皆様には感謝申し上げます。

これまでを振り返りますと、松林驍乃介先生が会長を努めておられたその時から、20 数年の間、監事を務めさせていただいております。その間この職務を十分に果たしているかどうか自問自答しながら、今日までまいりました。これまでこの業務を続けてこれたのは会員の皆様のご理解のおかげだと、信じて疑いません。

私が開業したのは昭和 46 年で、その当時は現在のように、小動物の病院が認知されてはおらず、犬屋さんと呼ばれるようなこともありました。開業した当時は学術的にも技術的にも未熟だった私を人並みに仕事ができるようにしていただいたのは、本会に所属されていた著明な先生や先輩方のご指導があったればこそだと感謝しております。

ます。そのおかげでこれまで 50 数年間仕事を続けることができました。

このご恩に対して、私ができることは何だろうと考えていた時、当時山本精治先生が総務部長だったと記憶しておりますが、彼より監事の職を勧められて、果たして自分に努められるものだろうか、半信半疑でお引き受けいたしました。年月だけはたってはおりますが、十分な仕事ができているか、まだ模索中です。

本会の目的は小動物開業者を守るためのものであることを自覚しなければなりません。

誰も守ってはくれません。会員に何かがあったとき、支援できるような体制を整えなければならぬと思っています。

今後も初心を忘れずに、会員の目線で公明正大を旨として、監事職を遂行したいと思います。

なお、理事の皆様とともに、少ない予算の中で、知恵を絞りながら、活動いたしますので会員の皆様にはご理解、ご協力のほどお願いいたします。

【監事】長崎 淳一

このたび、会長として 2 期にわたり一般社団法人日本小動物獣医師会の会務運営および事業推進に携わってまいりましたが、後進に本会を託したく、今期は立候補を見送りました。

しかしながら、監事 1 名が欠員となったため、理事会より運営の相談役を兼ねて推薦されました。つきましては、本会のさらなる発展のため、静かに力を尽くしてまいります所存です。

何卒よろしく願い申し上げます。

第 17 回（通算 55 回）定時社員総会報告

開催日時：令和 7 年 5 月 25 日（日）13：00～
開催場所：TKP新橋汐留ビジネスセンターホール 201

総社員数：81 名（代表社員 65 名、役員 16 名）
出席者：76 名（当日出席 44 名うちオンライン出席 15 名、議決権行使書 16 名、委任状 16 名）

定刻となり、佐藤順子副会長の司会の下、松木正信副会長の開会の辞により第 17 回定時社員総会が開会される。長崎淳一会長の挨拶、宮城県獣医師会渡邊清博会長の来賓挨拶、顧問の広島県獣医師会川野悦生会長、岡山県獣医師会中村金一会長を紹介する。

議長選任の経緯

規定により長崎会長が仮議長となり、議長選任を行う。当日出席の代表社員から議長を 2 名選任する規定により、片野浩二代表社員（群馬県獣医師会）、三浦豪夫代表社員（神奈川県獣医師会）を選任する。

第 1 号、第 2 号議案を片野議長が担当、第 3 号、第 4 号議案を三浦議長が担当する。議事録署名人には、長谷川眞代表社員（新潟県獣医師会開業部会）、三浦浩史理事を指名する。

13：10 現在の出席状況は出席者 72 名（当日出席 40 名うちオンライン出席 12 名、議決権行使書 16 名、委任状 16 名）で、総社員数 81 名の過半数の定足数を満たしているため定時社員総会の成立が宣言される。

議案審議

片野議長から第 1 号議案及び第 2 号議案は関連議案として一括審議することが宣言される。

第 1 号議案 令和 6 年度事業報告に関する件（社員総会資料参照）

総務部長より総会資料 9 ページ 18 行目、17 ページ下から 3 行目の 85.7% を 87.2% に修正報告があり、令和 6 年度事業活動を資料に沿って説明、長崎会長が総括、部長及び委員長が各部、各委員会事業、総務部長がその他事業を報告する。

第 2 号議案 令和 6 年度収支決算報告及び監査報告に関する件（社員総会資料参照）

総務部長が令和 6 年度一般会計及び各特別会計収支決算を資料に沿って説明し、監事より監査報告が行われる。

*第 1 号、第 2 号議案を一括採決の結果、承認に賛成 73 票、反対 0 票で可決承認される。



三浦議長に交代して第3号議案の審議を行う。

第3号議案 役員選任に関する件（社員総会資料参照）

国政選挙管理委員長が役員選任に関する公示の説明を行い、会場出席者による投票、選挙管理委員会による開票作業が行われる。

開票が終了して、国政選挙管理委員長から開票結果が報告される。開票の結果、すべての役員候補者が選任される。

選任された役員による臨時理事会が開催され、選任された佐藤順子理事が代表理事に選任され新会長への就任、業務執行理事の選任等は次回の理事会で行われることが報告される。

第4号議案 令和7年度一時借入金の最高限度額案に関する件（社員総会資料参照）

長崎会長より資料に沿って議案説明が行われる。

*採決の結果、承認に賛成71票、反対0票で第4号議案は可決承認される。

上程議案の審議を終了して、片野・三浦両議長は議長席より降壇する。

引き続き、報告事項の説明が行われる。令和7年度事業計画に関する件（社員総会資料参照）

長崎会長から資料に沿って令和7年度事業計画が説明され、部長及び委員長から各部各委員会の事業計画、総務部長からその他の事業計画についての説明が行われる。

令和7年度収支予算に関する件（社員総会資料参照）

総務部長から資料に沿って令和7年度収支予算についての説明が行われる。

代表社員より動物診療助手に関する質問があり、長崎会長が答弁する。

以上、15:30に渡邊言之副会長の閉会の辞により第17回定時社員総会を終了する。



令和6年度下半期監査会報告

開催日：令和7年4月13日

開催場所：本会会議室

出席者：会長：長崎 淳一

副会長：松木 正信、佐藤 順子

専務理事（総務部長）：林 健一

監事：富山 久利、西川 清孝

事務局：谷浦 仁美

事業報告（第17回定時社員総会資料参照）

役員会

・理事会

第5回 令和6年12月1日

出席理事11名、監事2名

第6回 令和7年3月2日

出席理事14名、監事2名

・会務運営役員会

第4回 令和6年12月1日

第5回 令和7年3月2日

監査会

・令和6年度上期監査会 令和6年10月13日

予算編成会議

・業務執行理事会議 令和7年1月19日

・予算編成会議 令和7年2月9日

委員会

部	委員会	回数	部	委員会	回数
総務	総務	2	プロジェクト	広報	4
獣医事	獣医事対策	3		動物診療助手認定	2
学術	学術	6		選挙管理	1
事業	災害対策	1			
	動物愛護・社会福祉	6			

会員の異動

区分	10月1日	入会	退会	所属変更	3月31日
正会員	2,275名	12名	34名	0名	2,253名
賛助会員団体	53社	0社	2社	-	51社
賛助会員個人	1名	0	0	0	1名
準会員	12名	4名	0	0	16名

収支報告（第17回定時社員総会資料参照）

監査報告

令和6年度下期の事業執行及び会計状況について会長より提出された事業報告、帳簿等の関係書類を詳しく監査した結果、正当であるものと認めます。

監事 富山 久利

監事 西川 清孝

監事意見

- ・動物診療助手認定試験、ホームページ広告といった本会として過去に実施してこなかった事業で収入を得る等の努力は評価できる。今後も本会の事業の柱として事業実施を期待する。
- ・委員会活動においては一部の理事が事業の実施、会務運営の実務を理解しているのかの疑問がある。

理事会報告

令和6年度 第6回理事会報告

開催日：令和7年3月2日

開催場所：TKP新橋汐留ビジネスセンター
カンファレンスルーム 303

総役員数：理事14名、監事2名

出席役員数：理事14名、監事2名

報告事項

I 令和6年度第5回理事会協議事項について

- ・令和6年度第5回理事会協議及び承認事項の確認

II 会務報告

1. 会議

- (1) 令和6年度第5回理事会 令和6年12月1日
- (2) 業務執行理事会議 令和7年1月19日
- (3) 予算編成会議 令和7年2月9日
- (4) 令和6年度第5回会務運営役員会
令和7年3月2日

(今後の予定)

- (1) 令和6年度下期監査会 令和7年4月13日
- (2) 令和7年度第1回会務運営役員会
令和7年4月27日
- (3) 令和7年度第1回理事会 令和7年4月27日
- (4) 令和7年度第2回理事会 令和7年5月25日
- (5) 第17回定時社員総会 令和7年5月25日

2. 人事関連事項

- (1) 会員の入退会（令和6年11月12日～令和7年2月14日受付）

- ・団体所属会員の入会 3名
- ・団体所属会員の退会 12名
- ・個人会員の入会 2名

3. 各委員会等関連事項

(1) 総務委員会

- ・第4回委員会 令和7年1月21日 オンライン会議 出席4名
カスタマーハラスメントオンラインセミナー

について、令和7年度総務委員会予算について

- ・オンラインセミナー収録 令和7年1月14日
- ・メルマガ新規登録者11月～1月分19名

(2) 獣医事対策委員会

- ・第4回委員会 令和7年1月28日 オンライン会議 出席5名、小堀顧問弁護士
同意書について、動画作製について、獣医事対策委員会要領作成について

(3) 学術委員会

- ・第8回委員会 令和6年12月6日 オンライン会議 出席8名、長崎会長
学術講演会について、オンラインセミナーについて、企業セミナーについて、JSAVA NEWS掲載記事について

- ・第9回委員会 令和7年1月31日 オンライン会議 出席6名、長崎会長
学術講演会について、オンラインセミナーについて、企業セミナーについて、JSAVA NEWS掲載記事について

(4) 動物愛護・社会福祉委員会

- ・第6回委員会 令和6年12月2日 オンライン会議 出席5名

身体障がい者補助犬助成申請者へのアンケートについて、日本身体障害者補助犬学会について、ホームページへの掲載について

- ・第7回委員会 令和7年1月20日 オンライン会議 出席5名

身体障がい者補助犬助成申請者へのアンケートについて、日本身体障害者補助犬学会について、ホームページへの掲載について

- ・身体障害者補助犬学会 令和7年1月11日・12日 四条畷学園短期大学 松本委員長
- ・補助犬助成申請動物病院へのアンケート

(5) 災害対策委員会

- ・第5回委員会 令和6年12月15日 本会会議室 出席6名
被災会員への支援規程について、BCP普及啓発について、被災状況報告について

- ・災害見舞金支給：1件（100,000円）
- (6) 広報委員会
- ・第4回委員会 令和6年12月5日 オンライン会議 出席4名、林専務理事、文洋社
 JSAVA NEWS第183号編集について、JSAVA NEWS第183号発送日程と第184号編集日程について
- ・第5回委員会 令和7年2月13日 オンライン会議 出席 林専務理事、文洋社
 JSAVA NEWS第184号編集及び発送日程について
- (7) 動物診療助手認定委員会
- ・第3回委員会 令和6年12月6日 本会会議室及びオンライン
 出席4名、長崎会長、松木・佐藤副会長
 第4回認定試験合否判定について、特例措置による認定状況について
- ・第4回委員会 令和7年2月2日 本会会議室及びオンライン
 出席4名、長崎会長、松木・佐藤副会長
 特例措置による認定状況について、第4回認定試験結果について、第5回認定試験日程について、動物診療助手届出について、動物病院スタッフ向けセミナーアンケートについて
- ・第4回認定試験
 第4回認定試験 令和6年12月6日（金）
 14：00～15：00
 受験申請者：353名
 （養成機関19校347名、個人6名）
 受験者数：343名
 （養成機関19校337名、個人6名）
 合格者数：299名（合格率87.2%）
 養成機関認定（申請順）：岡山理科大学専門学校、沖縄ペットワールド専門学校、神戸ブレイメン動物専門学校、東京環境工科専門学校、広島アニマルケア専門学校、MCL盛岡ペットワールド専門学校、吉田学園動物看護専門学校、DVMs どうぶつ医療学院、東京ブレイメン動物専門学校、国際ペット専門学校福井、専門学校大阪ビジネスアカデミー、愛犬美容看護専門学校、ブレイメン動物専門学校、大阪ブレイメン動物専門学校、札幌どうぶつ専門学校、経専

北海道どうぶつ専門学校、宮崎ペットワールド専門学校、国際ペットワールド専門学校、大阪動植物海洋専門学校

養成機関別受験申請者数(受験者数、合格者数)：
 愛犬美容看護専門学校:14名（11名、6名）、吉田学園動物看護専門学校:7名（7名、7名）、札幌どうぶつ専門学校:35名（34名、33名）、経専北海道どうぶつ専門学校:3名（3名、3名）、MCL盛岡ペットワールド専門学校:27名（26名、26名）、国際ペットワールド専門学校:62名（61名、42名）、東京環境工科専門学校:12名（11名、9名）、東京ブレイメン動物専門学校:21名（21名、21名）、DVMs どうぶつ医療学院:4名（3名、3名）、国際ペット専門学校福井:14名（14名、13名）、専門学校大阪ビジネスアカデミー:2名（1名、1名）、大阪ブレイメン動物専門学校:20名（20名、15名）、大阪動植物海洋専門学校:3名（3名、3名）、神戸ブレイメン動物専門学校:54名（54名、52名）、岡山理科大学専門学校:8名（8名、8名）、広島アニマルケア専門学校:7名（7名、6名）、ブレイメン動物専門学校:10名（10名、10名）、宮崎ペットワールド専門学校:20名（20名、20名）、沖縄ペットワールド専門学校:24名（23名、15名）、個人6名（6名、6名）

- (8) 選挙管理委員会
- ・第2回委員会 令和7年2月19日 本会会議室 出席5名、長崎会長、林総務部長
 委員長・副委員長の選任について、任期満了に伴う役員選任手続について、次回の委員会開催について

- (9) その他
- ・認定校会議 令和6年11月10日 本会会議室及びオンライン会議 出席4名
 出席認定校5校（札幌どうぶつ専門学校、北海道エコ・動物自然専門学校、国際ペットワールド専門学校、中央動物看護専門学校、神戸動植物環境専門学校）

令和6年度予備試験・国家試験の状況について、愛玩動物看護師教育について、動物診療助手認定事業について、認定校会議開催方法について

- ・日本獣医師会獣医学術学会年次大会 令和7年
1月24日～26日 仙台国際センター
長崎会長、松木・佐藤副会長、林専務理事
- ・中日アド企画打ち合わせ会議 令和7年2月4日
本会会議室及びオンライン
長崎会長、松木・佐藤副会長、林専務理事、事務局
- ・社員総会会場打ち合わせ 令和7年2月20日
TKP新橋カンファレンスセンター
長崎会長、松木副会長、事務局
- ・社員総会会場打ち合わせ 令和7年2月20日
東京グランドホテル
長崎会長、松木副会長、事務局

4. 後援関係

- ・野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」
キャンペーンへの協賛
- ・日本介助犬協会「介助犬フェスタ2025」への
後援 令和7年5月17日
愛・地球博記念公園地球市民交流センター

5. 企業との面談

- ・城南電機精器株式会社 令和7年2月20日
本会会議室 長崎会長、松木副会長
- ・シミックホールディングス 令和7年2月20日
本会会議室 長崎会長、松木副会長

協議事項

1. 会員の入退会について

- ・入会：個人正会員1名
*個人正会員1名の入会を承認する。
- 2. 第5回動物診療助手認定試験について
 - ・受験申請：令和7年10月20日～11月10日
 - ・試験日：令和7年12月5日13：30～14：30
*認定試験日等の実施計画を承認する。
- 3. 令和7年度事業計画案及び収支予算案について
(第17回定時社員総会資料参照)
 - ・各委員会から提出された事業計画及び予算要望を基に予算編成会議で決定した令和7年度事業計画案及び収支予算案を説明する。
 - ・役員改選に伴い委員会の構成も変更される可能性があるため、委員会からの事業提案ができる

ように委員会活動費を多めにしている。

*令和7年度事業計画案及び収支予算案を承認し、令和7年度事業計画及び収支予算とする。

4. 令和7年度第17回定時社員総会について

- ・開催日時：令和7年5月25日（日）13：00～
*第17回定時社員総会開催日を承認し、開催場所、議案は次回の理事会において決定する。

5. その他、会務運営事項について

- ・令和6年度終了後に事業報告を各部・委員会から期日までに提出する。
- ・獣医事対策委員会作成の同意書について説明する。
監事講評ののちに令和6年度第6回理事会を終了する。

令和7年度 第1回理事会報告

開催日：令和7年4月27日

開催場所：TKP新橋汐留ビジネスセンター
カンファレンスルーム101

総役員数：理事14名、監事2名

出席役員数：理事13名、監事2名

報告事項

I 令和6年度第6回理事会協議事項について

- ・令和6年度第6回理事会協議及び承認事項の確認

II 会務報告

1. 会議

- (1) 令和6年度第6回理事会 令和7年3月2日
- (2) 令和6年度下期監査会 令和7年4月13日
- (3) 令和7年度第1回会務運営役員会
令和7年4月27日

(今後の予定)

- (1) 令和7年度第2回理事会 令和7年5月25日
- (2) 第17回定時社員総会 令和7年5月25日
- (3) 令和7年度臨時理事会 令和7年5月25日

2. 人事関連事項

- (1) 会員の入退会

(令和7年2月17日～4月15日受付)

- ・団体の退会 2 団体
 - ・団体所属会員の入会 9 名
 - ・団体所属会員の退会 17 名
 - ・個人会員の入会 3 名
 - ・個人会員の退会 3 名
 - ・所属変更（団体から個人） 9 名
 - ・準会員の入会 1 名
 - ・賛助会員（団体）の入会 1 社
 - ・賛助会員（団体）の退会 2 社
3. 第 17 回定時社員総会
 開催日：令和 7 年 5 月 25 日（日）13:00～
 開催場所：TKPグループ会議室
 代表社員登録期限 令和 7 年 4 月 18 日
4. 各委員会等関連事項
- (1) 総務委員会
 ・メルマガ新規登録者 3 月分 2 名
- (2) 獣医事対策委員会
 ・第 5 回委員会 令和 7 年 3 月 11 日 オンライン会議 出席 5 名、小堀顧問弁護士
 同意書について、動画作製及び獣医事講演会について、講演会等開催要領作成について
- (3) 学術委員会
 ・第 10 回委員会 令和 7 年 2 月 28 日 オンライン会議 出席 7 名、長崎会長
 学術講演会について、オンラインセミナーについて、企業セミナーについて、JSAVA NEWS掲載記事について
 ・第 11 回委員会 令和 7 年 3 月 30 日 本会会議室 出席 8 名、長崎会長
 学術講演会について、オンラインセミナーについて、企業セミナーについて、JSAVA NEWS掲載記事について
- (4) 動物愛護・社会福祉委員会
 ・第 8 回委員会 令和 7 年 2 月 23 日 本会会議室 出席 6 名
 身体障がい者補助犬助成申請者へのアンケートについて、令和 6 年度事業報告について、令和 7 年度事業計画について
 ・第 9 回委員会 令和 7 年 3 月 11 日 オンライン会議 出席 6 名
 身体障がい者補助犬助成申請者へのアンケートについて、令和 6 年度事業報告について、令和 7 年度事業計画について
- ・身体障がい者補助犬助成：158 頭 2,370,000 円
 （1 頭につき 15,000 円、盲導犬 136 頭、聴導犬 13 頭、介助犬 9 頭）
- (5) 広報委員会
 ・JSAVA NEWS184 号 令和 7 年 3 月 15 日発行
- (6) 動物診療助手認定委員会
 ・特例措置による認定：3 月申請数 28 名、認定数 26 名、4 月申請数 38 名、認定数 37 名
- (7) 選挙管理委員会
 ・令和 7 年度第 1 回委員会 令和 7 年 4 月 20 日 本会会議室 出席 5 名、
 長崎会長、林総務部長、事務局
 役員立候補者について、投票の公示について、定時社員総会における役割分担について
- (8) 認定校関連
 ・優秀学生表彰：10 校 18 名（愛犬美容看護専門学校 2 名、札幌どうぶつ専門学校 2 名、吉田学園動物看護専門学校 2 名、北海道エコ・動物自然専門学校 3 名、MCL盛岡ペットワールド専門学校 1 名、国際ペットワールド専門学校 2 名、中央動物看護専門学校 1 名、神戸動植物環境専門学校 1 名、宮崎ペットワールド専門学校 2 名、専修学校沖縄ペットワールド専門学校 2 名）
 ・祝電：卒業式（宮崎ペットワールド専門学校、札幌どうぶつ専門学校）
 入学式（札幌どうぶつ専門学校）
- (9) その他
 ・日本介助犬協会「創設 30 周年記念式典」
 令和 7 年 3 月 14 日 JA 共済ビル
 長崎会長、松木副会長
 ・中日アド企画（株） 令和 7 年 3 月 23 日
 ヒルトン名古屋 長崎会長
 ・名古屋市獣医師会「設立 60 周年記念式典・祝賀会」 令和 7 年 3 月 23 日
 ヒルトン名古屋 長崎会長
 ・メットプランニング（株）木下様 令和 7 年 3 月 27 日 東横INN大阪本町 2 長崎会長
 ・動物臨床医学研究所「山根義久前理事長 偲ぶ会」 令和 7 年 3 月 27 日
 リーガロイヤルホテル大阪 長崎会長

5. 企業との面談

- ・ mappin (株) 令和7年3月14日 本会会議室 長崎会長、松木副会長

協議事項

1. 会員の入退会について

- ・ 入会：準会員 1名
賛助会員団体 1社
- ・ 退会：団体会員 2団体
- * 個人正会員は団体所属会員の入会として報告、準会員及び賛助会員団体の入会を承認、2団体会員の退会を確認する。

2. 第17回定時社員総会について

- ・ 開催日時：令和7年5月25日(日) 13:00~
- ・ 開催場所：TKP新橋汐留ビジネスセンター
- ・ 第1号議案 令和6年度事業報告に関する件
- ・ 第2号議案 令和6年度収支決算に関する件
- ・ 第3号議案 役員選任に関する件
- ・ 第4号議案 令和7年度一時借入金の最高限度額案に関する件
- 報告事項 令和7年度事業計画に関する件
令和7年度収支予算に関する件
- * 第17回定時社員総会開催日時・場所・議案等を承認する。

3. その他、会務運営事項について

- ・ 理事会推薦役員候補者について
- * 選挙管理委員会の報告により理事候補者13名、監事候補者1名であるため、役員選任規程第5条第7項の規定により理事候補者：林健一会員、監事候補者：長崎淳一会員を理事会から推薦することを議決する。
- 監事講評ののちに令和7年度第1回理事会を終了する。

令和7年度 第2回理事会報告

開催日：令和7年5月25日

開催場所：TKP新橋汐留ビジネスセンター
カンファレンスルーム304

総役員数：理事14名、監事2名

出席役員数：理事14名、監事2名

報告事項

I 令和7年度第1回理事会協議事項について

- ・ 令和7年度第1回理事会協議及び承認事項の確認

II 会務報告

1. 会議

- (1) 令和7年度第1回理事会
令和7年4月27日
(今後の予定)
- (1) 第17回定時社員総会
令和7年5月25日
- (2) 令和7年度臨時理事会
令和7年5月25日

2. 人事関連事項

- (1) 会員の入退会
(令和7年4月16日~5月13日受付)
- ・ 団体所属会員の入会 7名
- ・ 団体所属会員の退会 6名
- ・ 所属変更(団体所属から個人) 3名
- ・ 準会員の入会 1名
- (2) 顧問の異動
- ・ 静岡県獣医師会長、沖縄県獣医師会長

3. 第17回定時社員総会

開催日時：令和7年5月25日(日) 13:00~
開催場所：TKP新橋汐留ビジネスセンターホール201
代表社員登録：65名(定員75名)

4. 各委員会等関連事項

- (1) 動物診療助手認定委員会
- ・ 特例措置による認定：10名(推薦書9名、本会認定証1名)
- ・ 第5回認定試験パンフレット作成・配布
- (2) 選挙管理委員会
- ・ 第2回委員会 令和7年5月25日 カンファレンスルーム203

5. 後援関係

- ・ 日本動物病院協会「年次大会2025」令和7年11月26・27日 AP東京八重洲

協議事項

1. 会員の入退会について

- ・ 入会：準会員1名

団体会員 1 団体

* 準会員 1 名の入会を承認し、団体会員に所属の場合は団体会員からの入会報告となることを確認、団体会員の入会を承認し、個人会員から団体会員所属正会員への移動を確認する。

2. 第 17 回定時社員総会運営について

- ・ 代表社員の出席方法通知状況を確認する。
- ・ 議長予定者を確認する。

* 第 17 回定時社員総会運営計画を承認する。

監事講評ののちに令和 7 年度第 2 回理事会を終了する。

令和 7 年度 臨時理事会報告

開催日：令和 7 年 5 月 25 日

開催場所：TKP 新橋汐留ビジネスセンター
カンファレンスルーム 203

総役員数：新理事 14 名、新監事 2 名

出席役員数：新理事 14 名、新監事 2 名

社員総会において選任された新理事 14 名と新監事 2 名が出席した臨時理事会が開催される。代表理事である会長が選任されていないため長崎新監事が仮議長となり、協議を開始する。

協議事項

1. 代表理事の選任について

- ・ 代表理事への立候補・推薦を求める。
- * 佐藤順子新理事を代表理事として選任し、会長に就任することを承認する。

2. 業務執行理事の選任について

- ・ 佐藤新会長が議長となり、業務執行理事は次回の理事会において選任することを説明された。
- * 業務執行理事を次回の理事会で選任することを承認する。

以上で、臨時理事会を終了し、社員総会に報告する。

スタッフを募集される先生の 連絡をお待ちいたします

本会では、ホームページ、JSAVA NEWS にスタッフ募集記事を無料掲載致します。

是非、ご利用いただきたくお願い致します。また、新たにスタッフ採用予定の先生は、下記の事項を本会事務局までお知らせ下さい。

記

* 病院名：

* 住所：

* 院長名：

* 担当者名：

* TEL：

* FAX：

* メールアドレス：

* 募集人数：愛玩動物看護師 _____ 名
スタッフ _____ 名

* 印は必ずご記入ください。

掲載申し込みは FAX またはメールで日小獣事務局宛 お送り下さい。

FAX：03-5843-7549

メール：jsavainfo@jsava.org

ホームページでの掲載期間は原則 3 カ月とします。

委員会報告

<獣医事対策委員会>

令和6年度 第5回獣医対策委員会

開催日：令和7年3月11日（オンライン）

出席者：部長：渡邊 言之
委員長：岩西 正雄
副委員長：小西 治雄
委員：吉本 留美子
井口 尚子
顧問弁護士：小堀 優

議題：本会推薦同意書（例）について

最終チェックをし、JSAVA NEWS185号に掲載、同時にホームページに公開することを確認

ビデオ制作、講演会について

ビデオ向けテーマ決定

- 1) 広告についての法律改正について
- 2) 未納金回収方法について
- 3) 労働法について
講演会向けテーマ決定
 - 1) ハラスメントについて
 - 2) 雇用契約書の作り方
 - 3) 令和7年度改定、育児介護休業法について

<学術委員会>

学術委員会を下記の通り開催いたしました。

第9回：令和7年1月31日（金）（オンライン）

第10回：令和7年2月28日（金）（オンライン）

第11回：令和7年3月30日（日）（本会会議室）

学術委員会ではオンラインセミナー配信を月1本の予定で行っております。

配信されたものは順次ホームページで過去配信動画として視聴できるようになっております。

2月以降配信されたもの、5月末日以降の予定

は下記となります。

（締切の都合上JSAVA NEWS185号発刊時には既に終了しているセミナーも予定に記載しております）

詳細はホームページでご確認ください。

2～5月開催終了セミナー

2/27 20：00～21：30

演題：犬の血液によるがん検査「Nu.Q[®] Vet Cancer Test」の活用

講師：坂本 芽以先生

富士フィルムVETシステムズ株式会社 学術担当

3/27 20：00～21：30

演題：知っておきたい！犬と猫の口腔疾患

講師：高橋 香先生（高橋先生の所属は？）

4/25 20：30～22：00

演題：進化する糖尿病治療～SGLT2阻害薬と猫の糖尿病～

講師：福島 健次郎先生

どうぶつの総合病院 専門医療&救急センター

5/22 20：00～22：00

演題：上部尿路閉塞と急性腎障害～診断と治療～

講師：岩井 聡美先生

北里大学小動物第2外科学研究室

5月末日以降開催予定セミナー

6/28 20：00～21：30

演題：胸部レントゲン難関症例をエビデンスと経験から紐解く

講師：栗原 学先生

ノースカロライナ州立大学米国獣医画像診断専門医

7月以降（詳細未定）

演題：呼吸器続編（仮題）

講師：谷口 哲也先生

演題：歯科続編（仮題）

講師：高橋 香先生

・JSAVA NEWSの学術ページ

毎号1～3タイトル、掲載予定しております。

185号（本号）

行動学シリーズ第4回：常同障害、転位行動

石井 綾乃先生（ペテモどうぶつ医療センター相模原）

脳炎を理解するシリーズ第1回：起源不明髄膜脳脊髄炎（MUO）という疾患が登場した背景

笹岡 一慶先生（北海道大学動物医療センター 脳神経内科）

186号以降掲載予定

行動学シリーズ第5回：分離不安、恐怖症、全般性不安障害に関して（仮題）

石井 綾乃先生（ペテモどうぶつ医療センター相模原）

脳炎を理解するシリーズ第2回：

笹岡 一慶先生（北海道大学動物医療センター 脳神経内科）

187号掲載予定

行動学シリーズ第6回：攻撃行動に関して（仮題）

石井 綾乃先生（ペテモどうぶつ医療センター相模原）

脳炎を理解するシリーズ第3回：

笹岡 一慶先生（北海道大学動物医療センター 脳神経内科）

セミナー等の予定はJSAVA NEWS、メルマガ、ホームページでお伝えしていきます。

ご確認いただきますようお願いいたします。

学術委員会では今後も日々の診療に役立つセミナーを多く企画したいと考えております。オンラインセミナーや協賛セミナー、JSAVA NEWS学術記事等のリクエストがございましたら事務局までご提案下さい。

よろしく願いいたします。

＜動物愛護・社会福祉委員会＞

第8回委員会

開催日：令和7年2月23日（日）

開催場所：本会会議室

出席者：部長 松木 正信

委員長 松本 明彦

副委員長 崎山 玲子

委員 青木 泰道

太田 雄一郎

大門 由美子

議題

1. 補助犬来院病院（補助金申請病院）へのアンケートに関して
 - ・161件送付して、91件の回答があった。
 - ・補助額が、15,000円に増額されたことを知らない会員が8割を占め、周知の難しさが分かった。
 - ・各地方会・行政によって、治療費・予防関係の経費に対する、支援もまちまちであることもよくわかった。JSAVA NEWSに掲載する報告書を会員で考えて頂き、各地方会・行政との交渉の場で、支援に対する充実をお願いする一助になればと考える。
 - ・補助犬を診察頂いている会員のご苦勞が分かり、今後の委員会活動の礎になる結果であった。
2. 令和6年度事業報告・決算の件
3. 令和7年度事業計画書の件
 - ・この2年間の委員会事業を振り返り、次年度に申し送りする。また、引継ぎがスムーズに行えるよう、申し送り資料も併せて作成する。
4. その他

- ・太田委員より、自身が関わる学校飼育動物活動を報告されて、各委員より闊達な議論をする。子供たちに、是非とも命の大切さ、情操教育にも活用してほしいけれど、飼育が激減している現状を鑑み、委員会全員が憂いている。

第9回委員会

開催日時：令和7年3月11日（火）20～21時

開催場所：オンライン

出席者：部長 松木 正信
委員長 松本 明彦
委員 青木 泰道
太田 雄一郎
大門 由美子

議題

1. 補助犬来院病院（補助金申請病院）へのアンケートに関して
 - ・161件送付して、91件の回答があった。
 - ・各地方会・行政によって、治療費・予防関係の経費に対する、支援もまちまちであることもよくわかりました。JSAVANEWSに掲載する報告書を会員で考えて頂抱ける報告書にする。3月末までに最終報告の形で完成させて、広報委員会に渡す。
2. 令和6年度事業報告・決算の件
 - ・今回を含めて9回の委員会、懇親会2回、日本補助犬協会への訪問取材、アンケートと調査など、委員会の皆様の絶大なる協力のもと実り多い委員会活動が出来たと自負している。
3. 令和7年度事業計画書の件
 - ・引継ぎ資料を作成して、事業計画書に反映させる。

<広報委員会>

第1回委員会

開催日：令和6年4月29日

開催場所：本会会議室

出席者：委員長：三浦 浩史

副委員長：鈴木 淑剛
委員：伊東 彰仁
：村井 厚士
専務理事：林 健一
文洋社

議題

1. JSAVA NEWS原稿テンプレートについて
2. JSAVA NEWS発送封筒への情報印刷について
3. JSAVA NEWS182号編集日程について
4. JSAVA NEWS183・184号発行日程について

第2回委員会

開催日：令和6年6月18日

開催場所：オンライン会議

出席者：委員長：三浦 浩史
副委員長：鈴木 淑剛
委員：伊東 彰仁
：村井 厚士
専務理事：林 健一
文洋社

議題

1. JSAVA NEWS182号編集について

第3回委員会

開催日：令和6年11月14日

開催場所：オンライン会議

出席者：委員長：三浦 浩史
副委員長：鈴木 淑剛
委員：伊東 彰仁
：村井 厚士
専務理事：林 健一
文洋社

議題

1. JSAVA NEWS183号編集について

第4回委員会

開催日：令和6年12月5日

開催場所：オンライン会議

出席者：委員長：三浦 浩史
副委員長：鈴木 淑剛
委員：伊東 彰仁
：村井 厚士

専務理事：林 健一
文洋社

議題

1. JSAVA NEWS183号編集について

第5回委員会

開催日：令和7年2月13日

開催場所：オンライン会議

出席者：委員長：三浦 浩史

副委員長：鈴木 淑剛

委員：伊東 彰仁

：村井 厚士

専務理事：林 健一

文洋社

議題

1. JSAVA NEWS184号編集について



世界初、ネコ・エリスロポエチン製剤

エポベット® EPOVET®



3つの特長

世界初※、
猫のために作られた
エリスロポエチン製剤

※承認取得時の調査結果に基づく

臨床試験において
確認された
有効性と安全性

猫へのストレスに
配慮した
投与頻度

製造販売元



日本全薬工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

エポベットは日本全薬工業株式会社の登録商標です。



常同障害、転位行動

ペテモどうぶつ医療センター相模原
 松山ほうじょう動物クリニック
 南麻布動物病院
 麻布大学共同研究員 石井 綾乃

■概要

常同障害とは、ストレスや欲求不満、葛藤が原因となり、その場の状況にそぐわない行動を繰り返し、過剰に行う疾患である。この繰り返し行動は生活に支障が出るほどに行われ、動物の生活の質を著しく低下させる。動物の常同障害は、ヒトの強迫性障害と類似の疾患であると考えられている(1)。動物の場合は強迫観念を確認することはできないため、「強迫」という言葉は使わずに、「常同障害」という診断名が用いられている。

■疫学

常同障害は性別、年齢、犬種にかかわらず発症しうる。いずれの年齢でも発症し得るが、発症年齢の平均値は社会的成熟期(12~36ヵ月)と一致し、犬の中央値は12ヵ月で、約半数は1歳までに最初の徴候を示す。

どの犬種でも、どの行動タイプが出るのが、犬種によってはよく認められる行動タイプが存在する(表1)。

表1 犬種ごとによく認められる常同障害の行動タイプ
 (文献2より引用)

犬種、猫種	行動タイプ
ブルテリア	回転、尾追い、すくみ行動
ジャーマン・シェパード	回転、尾追い、幻覚
グレートデン ジャーマン・ショートヘアード・ポインター	自傷行動、常同的な運動(フェンス走行)、幻覚
ダルメシアン ロットワイラー	幻覚
ドーベルマン	脇腹吸い
ボーダーコリー	影追い
オーストラリアン・キャトルドック	尾追い
ミニチュア・シュнауザー	後躯の確認
大型犬	肢端舐性皮膚炎、肉芽腫
柴犬、ダックスフンド	尾追い、自傷行動
シャム猫 アジア猫	布を咬む、過剰発声

■発症要因・発症機序

①遺伝的要因

変異遺伝子は同定されていないが、犬種により行動タイプに特徴があることから、遺伝的要因が関与すると考えられている。

②ストレス

ストレスは常同障害の原因となり、日常の飼育環境、環境変化、飼い主家族との関わり合い等で生じる葛藤・欲求不満・不安とのストレスや、身体的疾患によるストレス等が挙げられる。エリザベスカラーの装着がストレス源となり、常同障害を発症したと考えられる症例も存在する。

③発症機序

常同障害の病態は完全に解明されていないが、ヒトの強迫性障害の研究より、大脳皮質・大脳基底核・視床への回路である皮質線条体視床皮質回路の機能異常が関係している可能性が示唆されている (3)。

イヌでは、常同障害 (脇腹吸い) の症状を示すドーベルマンの脳に構造異常が認められたという報告がある (4)。治療として、強迫性障害同様に選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) が治療に有効であることから、常同障害の病態にセロトニン受容体の異常が関係していると考えられている。

■臨床徴候

常同障害は5種類の行動タイプに分類することができる (表2)。徴候として認められる行動は、グルーミング、摂食、歩行などの正常な維持行動から派生した行動である。常同障害では1種類の行動のみを示すことが多いが、違うタイプの行動が組み合わさり、同時に現れることもある。

■検査・診断

常同障害を確定できる検査は存在しないため、同様の症状を示す身体的疾患・行動学的疾患の鑑別診断を挙げ、検査・問診により除外することで診断を行う。

①身体的疾患の検査

問診、身体検査、血液検査、尿検査、必要に応じてレントゲン検査・超音波検査・内分泌検査・神経学的検査・皮膚検査・CT・MRI等の検査を行う。

神経学的疾患との鑑別診断に関して、問題となる行動がどのタイミングで現れるか、行動の最中に中断できるか、行動のあとにぼーとした状態になるか (発作後期のような症状) 等を確認する。常同障害の場合は、途中で中断できることが多いが、発作の場合は中断できないことが多い。例えば、尾追い・フライバイト (ハエ追い) 等はてんかん発作等でも見られ、自傷行動 (過度の舐め行

表2 常同障害の行動タイプによる分類
(文献2より引用)

分類	行動タイプ
動きに関するもの	回転、尾追い、同じところを歩き回る、すくみ行動、飛び跳ねる、皮膚を細かく震わす
口が関係するもの	自分の体を舐める・噛む、空中や鼻を舐める、物を舐める・噛む(物、飼い主の体など)、脇腹吸い、織物吸い、ハエ追い、多食多飲、異嗜
発声	単調に繰り返す吠える、鳴く
幻覚	影追い、光追い、驚く様子、回避、ハエ追い、空中を舐める、1点を見つめる、見えない獲物を追う
攻撃	動物自身や人や物に対する攻撃(うなる、咬むなど)

動、ひっかき行動、咬む行動等)は脊髄空洞症等でも生じる。

皮膚疾患との鑑別に関して、自傷行動・過剰グルーミング・尾追い等は鑑別が重要となる。皮膚疾患自体がストレス源となり、二次的に常同障害に発展することもある。

疼痛を伴う疾患との鑑別に関して、疼痛に対する正常な動物の行動として、その部位を過剰に舐めたり、噛んだりする自傷行動が生じることもあるし、膀胱炎により腹部皮膚を舐める行動を繰り返す可能性もある。

②行動学的問診

行動学的疾患の鑑別：日本獣医動物行動学会の統一質問用紙(図1、引用文献5)等を使用し、網羅的に問題行動・日常生活の様子の聴取を行う。

問題行動の原因分析：問題となっている行動の詳細を聴取し、「関連因子・誘発する刺激・推察される情動・問題となる行動・行動を増やす強化子」を問診の中で推察すると、診断のヒントになる(図2)。



図1 日本獣医動物行動学会「診察前調査票」統一フォーマット
<https://vbm.jp/> からPDFを無償でダウンロードでき、学会会員はWordでダウンロード可能で、病院名などを追記することができる。

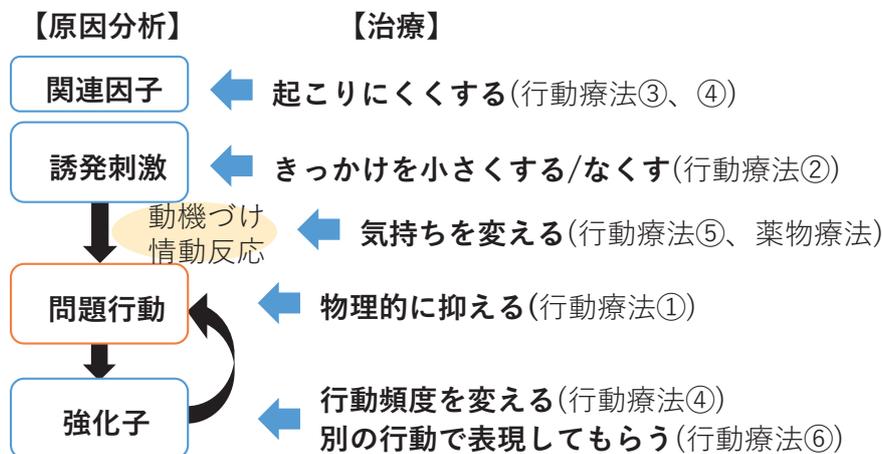


図2 問題行動の原因分析と治療

日常生活の問診：日常生活におけるストレスが発症要因になるため、特に飼育環境においてアニマルウェルフェアにおける5つの自由が満たされているか、特に「正常な行動を表出する自由」にあたる飼い主との適切な関係づくり・散歩・遊ぶ時間など、社会的・身体的・精神的な刺激が十分に提供されているかを確認する。

- 1, 飢えと渇きからの自由
- 2, 不快からの自由
- 3, 痛み・怪我・病気からの自由
- 4, 恐怖や苦悩（精神的苦痛）からの自由
- 5, 正常な行動を表出する自由

行動の観察：診察中の動物の行動、飼い主家族との関わり合いを観察し、動物の性格や飼い主家族との関係性を推測する。また、問題行動は診察室ではなく自宅等で生じることが多いので、初診・再診前に動画の撮影を依頼し、在宅時・可能ならば留守番時の動画を確認することが非常に重要となる。

鑑別が重要な行動学的疾患：転位行動は、葛藤している状態や、欲求が満たされない状態において、ストレスを軽減するために、その状況とは関係がない行動を示すことである。転位行動の場合はストレスの刺激が推定でき、その刺激を取り除けば問題行動が消失することが多い。悪化するとストレス源を推定できない程の頻度・程度で生じる常同障害に発展する場合がある。

関心を求める行動は、家族の存在下のみでその行動が認められるため、留守中の動画を確認すると問題行動が生じないことが多い。問題行動を止めようと飼い主が声を掛ける等が強化子となり、その問題行動の出現を増やしている症例も多く存在する。

■治療（図2）

常同障害は発症要因の一つにストレス・葛藤・欲求不満があることから、ストレス要因を推定し減じること、ストレスを減らす飼育環境を整えること、誘発刺激を減じることが重要となる。動物が様々は環境でも落ち着いて過ごし、常同障害の

症状の代わりに行動として、穏やかな行動（座る、伏せるなど）を示すことを目標としていく。

【行動療法】

①安全対策

✓エリザベスカラーの利用

自身の体を過剰に舐める、咬む場合には、外傷の悪化を防ぐためにエリザベスカラーの着用を検討する。ただし、エリザベスカラーの装着自体がストレスとなり、常同障害を悪化させるリスクもあるため、カラー装着時に好物の食べ物を与えながら装着することが望ましい。カラー装着でパニックになる場合は洋服・包帯などの利用も検討する。

✓室内リードの利用

例えば尾追い行動など回転行動が始まると動物自身で止めることができない場合や、攻撃行動が生じる場合などは、室内でもリードを常時装着し、犬に触れずに場所を移動させるなどに利用する。

✓止める際に布などを利用

怪我をするほどの行動を止めようとする際に素手でさわると咬まれる可能性もあるため、毛布やバスタオルなどをリビングに置いておき、止める必要がある場合に使用する。

②問題行動の誘発刺激の制御

✓ストレス、葛藤、欲求不満、恐怖不安を引き起こす刺激を回避する

例えば「飼い主がなでる時に尻尾を追いかける」という行動が生じている場合には、飼い主はよかれと思ってなでているかもしれないが、動物にとっては予期しないタイミング、触り方でなでられるという刺激が、尾追い行動を誘発している可能性がある。常同障害の行動がどのようなタイミングで生じているかを問診する中で誘発刺激を推定し、避けられる刺激は減弱する必要がある。

③飼育環境の適正化

✓5つの自由を確認し、是正する

具体例としては、食事量の過不足を是正するこ

とや、多くの場合、運動・遊ばせる時間が不足しているケースが多いため、その動物にとって適切と予想される運動・遊びを提案する必要がある。

「小型犬は散歩が不要」など誤った情報を聞き、散歩に連れて行っていないケースや、「猫は遊ぶ生き物」であることを知らず、遊ぶ機会を提供していないケースに遭遇することがある。

また、不安気質の動物の場合は、外での散歩に恐怖不安を感じ、適切な発散になっていないことがあるため、野外の散歩だけでなく、室内での運動や知育玩具を用いた遊び、ノーズワークなどの提案も必要となる。

④飼い主家族との関係の改善

✓体罰・強い叱責を中止する

常同障害による行動が生じた際に、大きな音をたてる・仰向けにする・チョークチェーンという首がしまる道具で首をしめる等の対応を訓練士の指導等を元に行っているケースがある。驚き恐怖不安で一瞬行動が止まるかもしれないが、それは根本解決にはなっていないので注意が必要である。体罰は正しい行動を教えることができないだけでなく、恐怖不安な気持ちを増強し、ストレスを高めて常同障害を悪化させるため、直ちに中止するよう飼い主に伝えるべきである。

✓声掛けのみの対応は中止する

反復行動に対して「だめよ」と声をかける、抱き上げるなどの対応を行う飼い主が多い。重度の常同障害の場合は、それだけでは止まらないことも多いが、声掛けが反復行動の強化子（行動を増やす報酬になる）や、関心を求める行動を増加させ、結果として反復行動を増加させていることがある。

声掛けのみで対応することは行わず、声をかけた後に反復行動の代わりに行動を指示し（この後の⑥で記述）、その行動に対して好物を与えるなどの対応が望ましい。

✓一貫性のある対応を提案する

飼い主都合で構う時、無視する時、褒める時、叱る時が無秩序に存在すると動物は混乱・葛藤す

ることがあるため、動物が予測しやすい関わり合いを心がける。

✓飼い主との信頼関係の改善

動物の好物を用いたコマンドトレーニングは、動物が快刺激である好物を得ることができ、飼い主との予測しやすいやり取りで安心感を得られるため、動物と飼い主の信頼関係の改善に有力な方法である。

「コマンド」→動物がその行動をする→「褒め言葉」→好物を与える

コマンドの例:アイコンタクト（名前）、おいで、おすわり、まで、ふせ、ベッドなどを用いる。

※これらは後述する⑥行動置換法にも活用できる

⑤拮抗条件づけ・系統的脱感作

✓苦手なことに慣らす

✓協力的ケアトレーニング

②で避けられる刺激は減らすが、日常生活を送る上で避けられない刺激に関しては、学習理論の拮抗条件づけ・系統的脱感作の手法を用いて、苦手な刺激を受け入れやすいように慣らしていく必要がある。

例えば「触られる」という刺激によりストレスの増加、反復行動が生じている場合には、なでることを控えても、野外に連れ出す・通院など全く触らずに飼育を続けることは難しいケースが多い。その場合には、好物の食べ物など快刺激を与えながら、「触られる」という不快刺激を与えるという拮抗条件づけを行う。また、「触られる」とい行為を実際には体に触れずに触るふりから始めて、少し手を近づける、少しだけさわる、少しなでる、しっかりなでるなど、徐々に慣らしていく系統的脱感作の方法を用いていく。

※この時に以前ご紹介した協力的ケアトレーニングの方法も応用可能である。

⑥行動置換法

✓反復行動を行わずに、落ち着いている時に好物を与える、関心を払う

飼い主は問題行動が起きた時には声をかけた後、止めようとして対応するが、動物が落ち着いて何

もしていない時には放置している事が多い。動物がベッドやハウスで落ち着いている、おすわりしてこっちを見ているという望ましい行動を自発的に行っている時こそ、褒め言葉をかけ、好物の食べ物を与える対応を意識的に行う。(食べ物を好まない場合は、おもちゃで遊んであげるなど他の好ましいものを与えるが、おもちゃでは落ち着く行動は一時的に中断される。)

✓反復行動をしそう・している時に代わりの行動を与える

反復行動が生じそう・生じている際には、好物の食べ物を入れたタッパーを揺すって「カラカラ」と音を立てて注意を引き、「おすわり」の指示を与えて、おすわり行動に対して、タッパー内の食べ物を与えることを何回か繰り返す(1回のみの対応では、ふたたび反復行動が生じてしまうことが多いため)。

何回かコマンドの指示を繰り返した後は、「まで」のコマンドを与え、待たせている間に、何粒かの食べ物を知育トイに入れて、コマンドを守れたごほうびとして与えると、少しの時間知育トイに集中し、反復行動から意識がそれることが多い。

✓反復行動の代わりの行動を強化する

④のコマンドトレーニングで「ふせ」「ベッド」を教えることができた後に、日常生活の中で「ふせ」や「ベッド」の指示で、ベッドの上で伏せて落ち着く行動を強化する。動物が自発的にベッドの上で伏せている場合には、褒め言葉をかけ、好物の食べ物を与える。

【薬物療法】

犬猫の常同障害の治療薬として承認されている薬剤はないが、セロトニン再取り込み阻害薬(抗うつ剤)による治療の有効性が示されており、分離不安の治療薬として動物用医薬品の承認を得ている抗うつ剤を適応外使用で使うことが多い。

セロトニン再取り込み阻害薬(抗うつ剤)

処方する前には血液検査で特に肝臓・腎臓機能に問題ないことを確認の上での投薬が望ましい。

セロトニン再取り込み阻害薬は効果が見られるまでに6~8週間かかり、有益な効果が見られてから最低でも3~6ヵ月間使用する。投薬を終了する際には、徐々に減薬する必要がある、減薬過程で症状悪化が見られた場合は、行動が悪化する前の投与量に戻す。長期間、また生涯投薬が必要になる場合もあるため、6~12ヵ月に1回程度に血液検査を行うことが推奨される。

国内では近年、より副作用の少ない選択的セロトニン再取り込み阻害薬のフルオキセチン(リコンサイルTM)の販売が開始され、フルオキセチンの代表的な副作用は、消化器症状、排尿排便障害、てんかん閾値を下げることである。また、三環系抗うつ剤クロミプラミン(クロミカルムTM)はセロトニン以外にもアセチルコリンやヒスタミン等への作用も有することから、副作用として消化器症状、排尿排便障害、てんかん閾値を下げる以外に、心臓への影響、緑内障への影響等がある。

(表2)に推奨用量を記載した。使用時にご注意いただきたいのが、イヌの治療薬として承認を得ている薬剤であり、薬の添付文章にはネコの使用用量が記載されていないため、ネコに対してイヌの用量で処方されており、副作用として消化器症状(食欲低下、嘔吐、下痢、便秘)・排尿障害(排尿量・回数減少等)の症状を示していた症例を見かけたことがある。

また、服用開始1週間程度は特に副作用がでやすいため、筆者は服用1ヵ月は予定投与量の半量で投与することも検討する(イヌで1.0 mg/kgで投与する予定の場合は、0.5 mg/kgで開始する。ネコで0.5 mg/kgで投与する予定の場合は、0.25 mg/kgで開始する)。

フルオキセチンはクロミプラミンに比べて副作用が少なく、攻撃行動や恐怖症等の治療にも用いられ、世界的に論文報告も多いが、ネコにおいて過剰投与で、重篤な排尿障害を生じたことが報告されている(6)。また、筆者も推奨使用範囲内での使用だったにもかかわらず、0.5 mg/kgから0.7 mg/kgに投与量を増量した段階で、薬剤誘発性の排尿障害を疑う症例を経験した(7)。フルオキセチンは体内排泄に2週間程度の長時間を有す

る薬剤であり、本症例は通常の排尿回数に戻るまでに16日間を要した。みなさまが実際に処方される際は、飼い主に体調変化の際には必ず報告することを提案いただき、早めに減薬・休薬等の対応を相談いただきたい。

【外科的介入】

尾追い・尾を咬む行動に関して、断尾を行っても常同障害自体は治らず、体の別の部位に対象が移る可能性があり、断尾は推奨されない。自傷により外傷を追った場合の創傷管理のために断尾が必要になることはあるが、その場合は常同障害の治療と並行して外科的介入を行うべきである。避妊去勢に関して、常同障害の治療には有力ではないが、常同障害が遺伝的素因を原因にもつ可能性があるため、繁殖に用いるべきではない。

引用文献

- (1) 入交眞巳. 常同障害：SA Medicine BOOKS 犬と猫の治療ガイド2015～わたしはこうしている～. 辻本元, 小山秀一, 大草潔ほか編. インターズー. 2015, pp1072-1076.
- (2) 花八亜子, 入交眞巳.: イヌの内科診療 Part2. 石田卓夫監. 緑書房. 2020, pp454-460.
- (3) 阿部能成, 強迫症の脳内メカニズム：最近の画像所見を中心に. 精神科治療学 32. 2017, pp379-385
- (4) Ogata N, et al, Brain structural abnormalities in Doberman pinschers with canine compulsive disorder. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2013 Aug 1;45:1-6.
- (5) <https://vbm.jp/> (2025年5月24日現在)
- (6) DiCiccio VK, et al, Fluoxetine-induced urinary retention in a cat. *Journal of Feline Medicine and Surgery Open Reports*. 2022;8 (2)
- (7) 石井綾乃ら,フルオキセチン休薬後16日間の尿排出障害が見られた猫の経過と対策案, ねこ医学会, 2025

脳炎を理解する

第1回 起源不明髄膜脳脊髄炎（MUO）という疾患が登場した背景

北海道大学動物医療センター
脳神経内科 笹岡 一慶

<はじめに>

「脳炎」という用語を診療の中で使ったことがない方はおそらくいないと思う。しかしながら、「脳炎」という言葉の使いやすさと裏腹に、そこには多様な臨床像と病態が含まれており、さらにはここ15年で学術的定義すら変遷している。さらに、診断の中ではMRI検査や脳脊髄液検査を要する場面も多く、ちょっと特殊な検査を使用する環境でなければ診断の流れもイメージもしにくい。さらにさらに、学術的定義は海外の論文が大きな流れを作っており、きちんとフォローするためにはそれなりに論文を読み込む必要がある。つまり、「脳炎」はやっかいな疾患なのである。

貴重な執筆の機会をせっかく頂いたので、小難しい疾患定義や概念の話から始め、色々変遷している診断基準の話と実際の診断の流れ、論文ベースと北大での回顧的研究をふまえたMUOの予後や治療の話へと展開しようと思う。本連載を読み切ったところで、脳炎についての理解が深まり

「MUO」、「GME」、「NME」、「パグ脳炎」、「シタラビン」といったキーワードが少しでも身近になって頂ければと思う。

第1回では、起源不明髄膜脳脊髄炎（MUO）という疾患が登場した背景について、私見に基づいた考察を交えて解説する。診断名がつくことの本質的な意義について色々考えてみたので、随筆として捉えていただけると幸いである。

<脳炎は原因を指定せず脳の炎症を指す広い用語である>

いわゆる「脳炎」の概念で間違いないのは「中枢神経系の一部である脳における炎症」である。神経疾患の鑑別を挙げるために使われるDAMNIT-V疾患分類においてはI: inflammatory, infectiousに該当する。非常におおきなくくりであり、複数の軸から分解し、その情報の意義を考えてみる。

脳炎の軸	バラツキ	情報の意義
原因	病原体（細菌、真菌、ウイルス、寄生虫など）を起点とする感染性の炎症、非感染性の炎症の2つに大別	治療選択の決め手
臓器レベルでの範囲	中枢神経系に限局した炎症、全身性疾患や他部位から脳に広がった炎症	鑑別を挙げる上で重要
中枢神経系内での範囲	前脳、小脳、脳幹、脊髄のレベルで限局的な炎症、散発的かつ多発する炎症、連続的にびまん性の炎症	神経徴候に直結、鑑別を挙げる上で重要
組織レベルでの範囲	脳実質、灰白質、白質、軸索、髄膜、上衣	鑑別を挙げる上で重要
時間	基本的には進行性で広がる性質を持つが、軽症であれば免疫による排除や自己終息の経過となる場合もありうる	神経徴候の種類増加および悪化に関連
病理	炎症細胞の浸潤、肉芽腫形成、軟化壊死、病原体の存在	最終的な確定診断の決め手

ここで強調したい点は、脳炎には感染性と非感染性の炎症がある点、中枢神経系の様々な領域に様々なレベルで炎症がおきうる点である。前者は脳炎の治療を大きく変えるものであり、多くの場合、感染性炎症に対する治療と非感染性炎症に対する治療（免疫抑制治療）は相反する治療となる。後者は用語の混乱を引き起こしうる。脳炎といいつつも、脳に接する髄膜にも炎症が波及した場合には、病理組織学的には髄膜脳炎である。脊髄にも病変があれば髄膜脳脊髄炎であり、髄膜にしか炎症がなければ髄膜炎であるが、病理組織学的検討がなければ厳密にはわかり得ない。正直、臨床的には特徴的な上炎（FIP など）や髄膜炎（中耳炎からの細菌性髄膜炎など）を除いては大差なく、臨床医としてはあまり区別せずに炎症の主体がありそうな場所の名前で疾患を表現する、つまり脳炎、脊髄炎、髄膜炎などと述べることが多い。臨床的疾患概念である起源不明髄膜脳脊髄炎（MUO）はその意味ではなんでもありの広い疾患名として記述されていることが分かっていただけだと思う。その意味で使いやすい診断名である。ただし、脳炎、髄膜脳炎、脊髄炎、と我々の主観的な認識で疾患についてバラバラに述べると、飼い主さんからは病名がころころ変わる印象になるようなので、誤解を招かないように注意するべきである。気にしそうな飼い主さんの場合には起源不明髄膜脳脊髄炎の説明をするときに、「髄膜と脳と脊髄は繋がっていて炎症の範囲をきちんと区切ることが難しいため、疾患の名前としてはこのように「髄膜」「脳」「脊髄」「炎」と広めに定義されています。我々獣医は脳炎や髄膜炎など一部を切り取って呼ぶこともありますが、同じものを指していて本質は同じです」と説明することもある。

<感染性の髄膜脳脊髄炎には様々ある>

髄膜脳脊髄炎の原因となる病原体は細菌、ウイルス、真菌、原虫、リケッチア、藻類、寄生虫、プリオンと幅広い。地域性や渡航歴、周囲環境の聴取、脳以外の臓器での感染状況から疑いを持ち、脳脊髄液や画像、他臓器の所見から診断を行う。

非感染性髄膜脳脊髄炎の話をする前に感染性の病態について確認する。

細菌性髄膜脳炎

細菌による感染性の炎症で、多くはないが遭遇することがある。細菌の由来は様々で、鼻腔や中内耳からの細菌を伴った炎症の浸潤、頭部外傷（咬傷、交通事故）、医原性（開頭手術やシャント設置後）、異物の迷入、血行性（菌血症、心内膜炎）、などがある。中枢神経系は無菌的なので、細菌が入り込むような事態の結果、細菌性の炎症が生じる。起因細菌は *Staphylococcus spp.*, *Streptococcus*, *Klebsiella*, *Pasteurella spp.*, *Actinomyces spp.*, *Nocardia spp.*, *Escherichia coli*, *Peptostreptococcus*, *Fusobacterium*, *Bacteroides spp.* などが報告される [1]。

年齢や性別、品種に寄らず細菌性髄膜脳炎は生じうる。炎症の領域により症状はまちまちだが、全身的な感染を伴う場合には発熱を認めることがある。CRP上昇や白血球上昇を認めることがあるが、全例ではない。診断はCSF検査における炎症所見と細菌の同定に基づく。MRI検査としては髄膜の造影増強所見や膿瘍として認めるが、膿瘍はしばしば腫瘍との鑑別が困難であり、特異的な検査とはいえない。治療は薬剤感受性試験に基づき抗菌薬を使用する。

真菌性髄膜脳炎

真菌による感染性の炎症で、まれに遭遇することがある。*Cryptococcus*, *Coccidioides*, *Blastomyces*, *Histoplasma*, *Aspergillus*, *phaeohyphomycoses* などが起因真菌として報告され、最も有名なのは *Cryptococcus* である [2]。鼻腔や頭蓋骨周辺から浸潤したり、血行性に頭蓋内に侵入したりすることもある。免疫不全や免疫抑制の状態では日和見感染として生じる場合もある。

弱齢から中齢での発生が多いとされ、炎症の領域により症状はまちまちである。診断はCSFの細胞所見、頭蓋外領域の組織生検による病理組織学的診断、血清やCSFでの抗原や抗体検査に基づく。MRI検査は非特異的な炎症所見や肉芽腫が腫瘍性病変のように認める場合もあり、特異的な

検査とはいえない。治療は抗真菌薬を使用する。

ウイルス性髄膜脳炎

ウイルスによる感染性の炎症で、猫ではネコ伝染性腹膜炎（FIP）が多い。犬ではイヌジステンパーウイルス感染症が多いとされるが国内での診断機会は稀である。他にも、猫免疫不全ウイルス（FIV）、猫白血病ウイルス（FeLV）、犬ヘルペスウイルス、猫ボルナウイルスなどがあり、海外では狂犬病ウイルスやウエストナイルウイルスも原因となる。診断は基本的にCSFでの病原体検出（PCRなど）に基づく。

FIPにおいて神経症状は30%程度で認めるともされ、中枢神経系での炎症は珍しいものとは言えない。全身での徴候を示す場合には中枢神経以外の部位からの採材によって診断することが可能であり、その方が望ましいだろう。一方で稀に中枢神経系のみで炎症所見を示し、全身には全く炎症の手がかりが現れない症例があり、この場合にはMRI検査やCSF検査での診断が必要となる。治療は抗ウイルス薬を使用する。

原虫性髄膜脳炎

単細胞の真核生物である原虫による感染性の炎症で、おそらく稀である。*Toxoplasma gondii*, *Neospora caninum*, *Acanthamoeba* spp., *Bala-*

muthia mandrillaris, *Babesia* spp., *Encephalitozoon cuniculi*, *Hepatozoon canis*, *Leishmania* spp.などが原因に挙げられる。

寄生虫性髄膜脳炎

Dirofilaria immitis, *Toxocara canis*, *Angiostrongylus vasorum*, *Echinococcus*などによる寄生虫の感染、迷入による疾患であるが、おそらく稀である。

<感染性ではないのが、非感染性髄膜脳脊髄炎 NIME>

先に述べた感染症が無いにもかかわらず中枢神経系に炎症が生じる疾患が非感染性髄膜脳脊髄炎（NIME, non-infectious meningoencephalomyelitis）である。NIMEには現在のところ、病理組織学的に異なる疾患と臨床的特徴が明らかに異なる疾患が含まれており、大きな診断の括りとなっている。図1にNIMEの全体像を示す。

図1ではNIMEの中に、CSFで好中球優位な総有核細胞数増多を示すステロイド反応性髄膜・動脈炎（SRMA, steroid-responsive meningitis-arteritis）、CSFで好酸球有意な総有核細胞数増多を示す好酸球性髄膜脳脊髄炎、特徴的な運動時

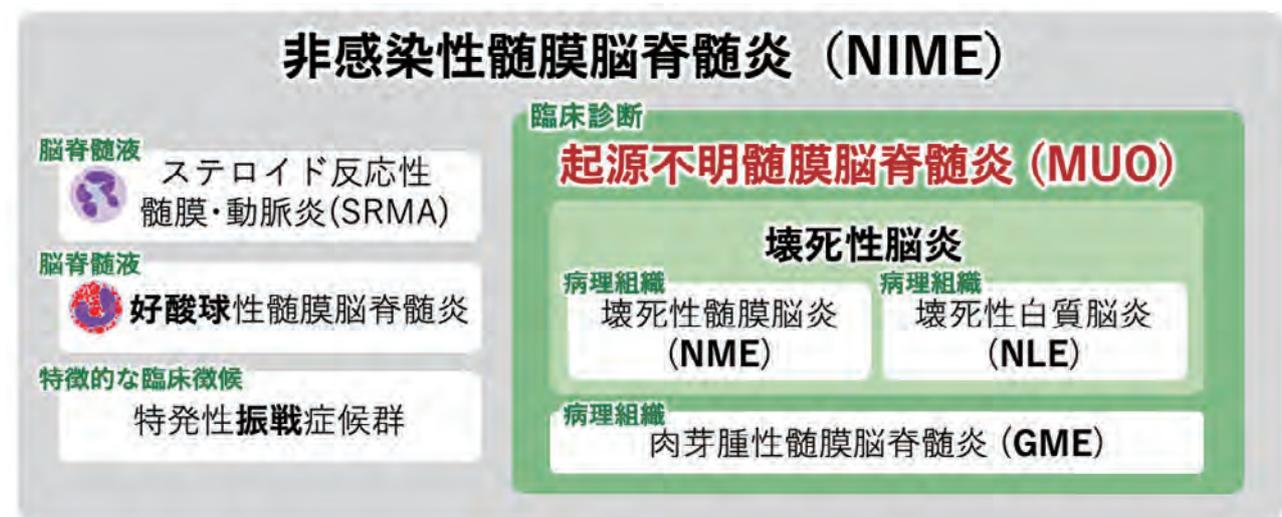


図1：非感染性髄膜脳脊髄炎（NIME, non-infectious meningoencephalomyelitis）
[3] より引用、改変

振戦の徴候を示す特発性振戦症候群、病理組織学的に診断される壊死性髄膜脳炎 (NME, necrotizing meningoencephalitis)、壊死性白質脳炎 (NLE, necrotizing leukoencephalitis)、肉芽腫性髄膜脳脊髄炎 (GME, granulomatous meningoencephalomyelitis)、NLE と NME をまとめた壊死性脳炎 (NE, necrotizing encephalitis)、NME と NLE と GME を区別せず内包した臨床診断である起源不明髄膜脳脊髄炎 (MUO, meningoencephalomyelitis of unknown origin) が含まれる構造として示される。図1はMUOの存在を念頭に作られた図であるため、腑に落ちるためにはMUOの疾患概念が必要となる。MUOの疾患概念を2つのベクトルで表現することを試みる。

起源不明髄膜脳脊髄炎 (MUO) の疾患概念

- ①病理組織学的に診断されるNME とNLE とGMEをあえて区別せずにまとめた疾患がMUO
- ②脳炎のうち、感染を除外し、CSFで区別可能なSRMA と好酸球性髄膜脳脊髄炎を除外し、特徴的な徴候の特発性振戦症候群を除外した残りの疾患がMUO

どちらも同じものを指しているがスタートが異なる。①は病理組織学からの疾患概念、②は診断学からの疾患概念である。MUOという疾患概念が作られた経緯から考えると①がよく分かり、診断クライテリアを紐解くと②がよく分かるが、その解説をする前にGME、NME、NLEについて教科書的な記述を押さえておくことにする。

<病理組織学的な診断名 GME、NME、NLE>

疾患の決め手になるのが病理組織学的診断である。脳炎は治療が定まらない初期には多くの症例が早期に死亡・安楽死となったため、病理組織学的診断の機会が多く、2010年代前半にかけて多くの知見が集積し、GME、NME、NLEの病理組織学的な診断が確立した [4,5]。

肉芽腫性髄膜脳脊髄炎 (GME, granulomatous meningoencephalomyelitis)

非化膿性肉芽腫の形成を主体とされるが、リンパ球や形質細胞、類上皮細胞などの血管周囲への集簇 (囲管性細胞浸潤) が病理組織像としては特徴的とされる。組織的な分布を元にして3パターン (播種型 disseminated form、巣状型 focal form、眼型 ocular) に分類できるとされるが、時に複合することもありパターン毎の境界は不明瞭である。様々な犬種において発症する。若齢から中齢の小型犬に好発するとされるが、大型犬や中高齢でも発生する。大脳白質や小脳、中脳、脳幹、脊髄などに病変を形成する [5]。炎症の領域により症状はまちまちである。治療の主体は免疫抑制療法となる。

壊死性髄膜脳炎 (NME, necrotizing meningoencephalitis)

急性期には髄軟膜や白質灰白質境界部にリンパ球を主とした細胞浸潤の炎症像を認め、慢性期には軟化壊死 (壊死脱落) を伴う病理組織像である。パグで最初に報告されたことからパグ脳炎と呼ばれたが、マルチーズ、ポメラニアン、シーズー、パピヨンなどの他の犬種でも報告がある。大脳皮質、海馬、視床、大脳白質、中脳、小脳などに病変を形成する [5]。炎症の領域により症状はまちまちである。治療の主体は免疫抑制療法となる。ちなみに、日本でパグの脳炎を病理組織学診断して初めて報告したのは帯広畜産大学の古林与志安先生 (当時は北海道大学に所属) である。

壊死性白質脳炎 (NLE, necrotizing leukoencephalitis)

深部白質や視床においてNMEと同様の病理組織像を認める。ヨークシャーテリア、チワワ、パピヨン、フレンチブルドッグなどの犬種で認める。大脳白質や視床に病変を形成する [5]。炎症の領域により症状はまちまちである。治療の主体は免疫抑制療法となる。

壊死性脳炎 (NE, necrotizing encephalitis)

病変分布と犬種がやや異なるが、NME と NLE

の病理組織像が同様であることから、区別せずにNEと呼ぶ考え方もある。

<病理組織学的な診断名 vs. 起源不明髄膜脳脊髄炎MUO>

GME、NME、NLEの確定診断の決定は病理組織学的所見に基づくものであり、これは間違いない。つまり、これらは病理組織学的な診断名である。では、実際の臨床現場で「病理組織学的な診断名（GME、NME、NLE）に基づいた脳炎の診断と治療」は現実的であろうか。メリットがデメリットを上回るならば実施すべきなので考察してみる。

—メリット：確定診断が付く。これは診断学から見てもっとも高潔なもので、研究的な視点でも大変ありがたい。今後の獣医療にも極めて有効な情報を与える可能性がある。しかし、現時点では治療に寄与する情報を提供する科学的根拠に乏しい。今後、病理型によって治療選択肢が変わるかもしれないための研究を行う、といった目的があれば良いかもしれない。十分な用意をした上での前向き研究の際には実施も考慮する。そもそも、脳炎であるか、腫瘍であるかの鑑別がMRI検査では困難な場合には脳生検による診断は治療方針の決定に有用になりうるが、ここで挙げたGME、NME、NLEを区別するという話とは論点が異なる。

—デメリット：GME、NME、NLEを区別しても現状は治療が変わるという情報はない。そもそも脳炎においてエビデンスレベルの高い（二重盲検RCTなど）治療法は示されておらず、ましてや病理組織学所見で層別化して解析した報告もない。脳生検には一定の割合での死亡を含めた合併症を伴う。

—メリットvs.デメリット：脳炎と他疾患の鑑別に苦慮して治療プランの立案が困難な場合でも無い限りはメリットがリスクを上回らない。

以上の考察より、「病理組織学的な診断名（GME、NME、NLE）に基づいた脳炎の診断と治療」は臨床的に現実的とならない、絵に描いた餅と私は考える。もちろん、献体剖検により診断できる貴重な機会もある。その機会は有効活用すべきであるし、現在も薦めているし、今後も積極的に勧める。脳腫瘍との鑑別に苦慮して脳生検を行った結果としてGMEであった場合も、その診断は多いに活用されるべきである。しかし、明らかに脳炎である（MUO診断基準を満たす）症例にGME、NME、NLEを区別するためにルーチンに脳生検からの病理組織学的診断をするべきだ、とする論拠を見いだせない。

この状況では一つの重大な問題が生じる。病理ができなければ診断できない、とした場合、臨床獣医療における科学的知見を積み重ねることができない、という致命的な問題である。先に述べたようにGME、NME、NLEは病理組織学的な診断名である。臨床的にはGMEなどを疑診することしかできない。そうになってしまうと、犬の脳炎について発表できる機会はほぼなく、治療に関しての知見を集めることも難しい。なぜならば、学会発表や論文には「診断」が必要で、それらをまとめるためには同じ基準に基づいた「診断」が必須だからである。診断できないことは臨床獣医療の敗北を意味する。

では、どうすればこの状況を打開できるのか。病理組織学的診断を必須とせず臨床的に診断できる診断名を作る必然性がここに生じる。これこそがまさに起源不明髄膜脳脊髄炎（MUO）という疾患概念が登場した背景と私は考える。研究や臨床に携わってきた先人達の「病理組織学的な診断が一番良いのはみんな分かっているが、それは現実的ではないので、臨床的な診断クライテリアを一旦作っておいて、それに従って診断することで情報を集めて、少しでも獣医学を前に進めよう。」という思いの結晶である。その先人の苦労に敬意を覚えたからこそ、MUOの疾患概念を大事にしたいと考える。当院で臨床的な診断基準に基づくMUOの回顧的検討を実施したのも、これへの敬意が大きい。もちろん細分化した方が治療を最適化できる、という未来も来る可能性はある。その

ために病理組織学的な診断の深化もできる限り行うべきである。情報が蓄積されれば将来的には診断名が変わる可能性もあるし、病理では無い側面で細分化される可能性もある。現時点でできる最善を尽くすしかない。

起源不明髄膜脳脊髄炎 (MUO) の疾患概念を再掲する。①が腑に落ちて頂けたらどうか。

起源不明髄膜脳脊髄炎 (MUO) の疾患概念

- ①病理組織学的に診断されるNMEとNLEとGMEをあえて区別せずにまとめた疾患がMUO
- ②脳炎のうち、感染を除外し、CSFで区別可能なSRMAと好酸球性髄膜脳脊髄炎を除外し、特徴的な徴候の特発性振戦症候群を除外した残りの疾患がMUO

<GME、NME、NLEが同一個体内で併存することも報告される>

2022年にドイツの病理ラボから、4/65例でGME所見とNME/NLE所見が併存していたと報告された [6]。一部症例ではMRI検査の画像も掲載されていたが、確かにGMEっぽい部位とNEっぽい部位が混在している画像が確認できる。病理組織学的所見ですら併存する可能性がある中で、臨床的に区別する意義はどこまであるのか、さらに考えさせられる報告であった。

<MRI検査・CSF検査は、GME、NME、NLEを判別できるのか?>

MRI・CSF検査を使えば区別ができるのではないかとと思われる方もいらっしゃると思う。「割と良い線まで区別できているはず?」と私は考える。病変の分布やCSFの細胞像、さらには犬種や年齢、経過といった情報をふまえると、自分の中ではいい線まで分けられていると感じているが、病理組織学的な答え合わせができない状況ではその真偽や正診率は定かでは無い。また、様々な論文や回顧的な検討をふまえても、GME、

NME、NLEの区別には現時点 (2025年時点) ではメリットを見つけられていないので、私は診断名としてはMUOを使うようにし、心の中でGMEかな、と考えるようにしている。大学院生時代にイギリスのロンドン大学 (Royal Veterinary College) に短期留学した際にも、レジデントの「GMEだと思います」という診断の提示に、指導医が「そうだね。でも学術的に正しいのは?」「MUA」「Yes. It's correct.」と答えていたことが記憶に残っている。

なお、私の知る限りGME、NME、NLEの判別におけるMRI検査の正診率を記述した論文はない。MRIの画像を特殊な解析であるテクスチャ解析すると、GME、NME、NLEで有意な差があったという報告 [7] はあるため、感じている通り画像的な違いは存在するという事なのであろう。将来的にGME、NME、NLEを区別することに臨床的意義が生じた際には、病理組織学的をゴールドスタンダードとしたMRI検査におけるGME、NME、NLEの判別における正診率についての研究報告が行われるであろう。

<それでもやはり病理組織学的所見がほしい。でも、診断は臨床的にする>

MUOの疾患概念も私のこの記事も病理組織学的検査がいらぬ、という意図ではない。病理組織学的検査ができるのであれば、それに越したことはないと思う。GMEとNEの変損症例の報告や血管炎を伴う脳炎の報告など、病理学的な検索に基づく脳炎の詳細な病態解析は今後ますます必要であろう。また、診断学としてもより精密な (深化した) 診断が望ましいため、MUOの診断を深化させた先のGME、NME、NLEを常に狙いたい。チャンスは逃さず病理はすべきであると考え

る。結局何が言いたいのかというと、病理がないから診断できない、とするのではなく、臨床診断である起源不明髄膜脳脊髄炎 (MUO) の診断をきちんと行って、臨床的な知見を集積することに邁進すべきである、ということである。MUOの疾患概念を作った先人に感謝しつつ、今、我々が

できるベストを尽くすのが重要と思う。

第2回では、今回書けなかった起源不明髄膜脳脊髄炎 (MUO) の臨床的診断とその変遷、疾患理解について記載しようと思う。

[1] Radaelli S.T, Platt S.R. Bacterial meningoencephalomyelitis in dogs: a retrospective study of 23 cases (1990-1999). *J Vet Intern Med.* 2002;16:159-163. PMID: 11899031.

[2] Sykes J.E, Sturges B.K, Cannon M.S, et al. Clinical signs, imaging features, neuropathology, and outcome in cats and dogs with central nervous system cryptococcosis from California. *J Vet Intern Med.* 2010;24:1427-1438. PMID: 21054543.

[3] Coates JR, Jeffery ND. Perspectives on meningoencephalomyelitis of unknown origin. *Vet Clin North Am Small Anim Pract.* 2014 Nov;44(6):1157-85. doi: 10.1016/j.cvsm.2014.07.009. Epub 2014 Sep 18. PMID: 25239815.

[4] Uchida K, Park E, Tsuboi M, Chambers JK, Nakayama H. Pathological and immunological features of canine necrotising meningoencephalitis and granulomatous

meningoencephalitis. *Vet J.* 2016 Jul;213:72-7. doi: 10.1016/j.tvjl.2016.05.002. Epub 2016 May 5. PMID: 27240919.

[5] Park ES, Uchida K, Nakayama H. Comprehensive immunohistochemical studies on canine necrotizing meningoencephalitis (NME), necrotizing leukoencephalitis (NLE), and granulomatous meningoencephalomyelitis (GME). *Vet Pathol.* 2012 Jul;49(4):682-92. doi: 10.1177/0300985811429311. Epub 2012 Jan 18. PMID: 22262353.

[6] Nessler JN, Oevermann A, Schawacht M, Gerhauser I, Spitzbarth I, Bittermann S, Steffen F, Schmidt MJ, Tipold A. Concomitant necrotizing encephalitis and granulomatous meningoencephalitis in four toy breed dogs. *Front Vet Sci.* 2022 Sep 1;9:957285. doi: 10.3389/fvets.2022.957285. PMID: 36118343; PMCID: PMC9477003.

[7] Wanamaker MW, Vernau KM, Taylor SL, Cissell DD, Abdelhafez YG, Zwingenberger AL. Classification of neoplastic and inflammatory brain disease using MRI texture analysis in 119 dogs. *Vet Radiol Ultrasound.* 2021 Jul;62(4):445-454. doi: 10.1111/vru.12962. Epub 2021 Feb 26. PMID: 33634942; PMCID: PMC9970026.

帰脾湯：心と胃腸を整える漢方薬

日本獣医中医薬学院 西依 三樹

最近医学において精神、感情、思考、食思などは腸内細菌との関係性が深いと言われてきています。体にとって必要な食物を腸内細菌が迷走神経を介して脳に指令を送っているのだそうです。これに似た概念は中医学では古代より説かれており中医学を学んでいるものにとってはごく自然に理解できるものです。

漢方の世界でも腸内細菌が近頃話題になっています。漢方薬の効果に個人差があるのは何故かと言う疑問です。同じ症状の人達に同じ漢方を服用してもらい、その効果をみる試験において個人の腸内環境の差が効果に影響しているという研究結果が報告され国際科学誌に掲載されました（2021年11月17日）。

漢方薬の多くは糖と結合しており消化酵素だけでは吸収されず腸内細菌による加水分解によって体に吸収されるようになるということです。勿論、腸内環境が整っている人の方が漢方の効果が出やすい事は言うまでもありません。

そう考えると漢方薬には胃腸薬的な生薬である人參、白朮、茯苓、大棗、生姜、甘草などが配合されている物が多くあり、腸内細菌の概念がなかった時代、先人達はその長い経験から漢方薬の効果が胃腸の状態と深く関係する事に気付いていたのだと思います。

犬や猫においても同様な症状の個体に、同じ漢方薬を与えてもその効果に個体差が出ることは経験的によくあることです。こういった場合、自分の診断の間違いなのか、漢方薬の服用量の問題なのか、或いはメーカーでの生薬産地による薬効の違いなのか、服用時間、回数は、と悩むことは多々ありますが、個体の胃腸の状態も加味して行かなければならないと思っています。

今回は胃腸の状態を整えて精神を安定させる帰脾湯（キヒトウ）という漢方をご紹介します。生

薬が各臓腑や、諸器官などに選択的に作用することを帰経（キケイ）と言いますが帰脾湯の帰脾の由来は脾に帰経（作用）する薬であると言う意味からではないかと思われます。何故なら11種類の生薬から構成されますが、その内9種の生薬が脾に帰経するものであるからです。

中医学的な脾の機能には主に運化、昇清、統血と言う作用があります。これは西洋医学的な脾臓の概念とは全く違うものですので、ここでご説明させていただきます。

1) 運化作用：

中医学では消化吸収は脾と胃が担うと考えられています。中医学では飲食物を水穀（スイコク）と言いますが胃の機能は水穀を腐熟させて腸に送る作用であると考えられています。これは西洋医学的にある意味一致しますが、脾の働きについては胃で腐熟された水穀を小腸、大腸と送る間に消化吸収し生体の構成物質である気・血・水・精の元となる水穀の精微（栄養成分）へと変化させることです。これを脾の運化作用と言います。

2) 昇清作用：

水穀から消化吸収した水穀の精微を心、肺、頭部に昇らせる作用のことを昇清と言います。水穀の精微は心、肺により気、血に化生され全身に送られていきます。また内臓を定位置に固定するのも昇清作用のもう一つの働きであり、昇清作用が弱ると内臓下垂を引き起こすことになります。

3) 統血作用：

脾には脈管から血を漏れ出なくする作用があり、止血＝血小板との関係性も伺えます。

◆帰脾湯：適用症状・疾患

症状：不眠・貧血・不安・食欲不振・軟便・下

痢・嘔吐

疾患：認知症・分離不安症・血小板減少症（まとめ欄参照）

◆証 虚

◆生薬の作用

(生薬名)	(効 能)
黄耆	気を補い脾の昇清を高め血や汗の漏れを防ぐ
人參	脾気を補い、血、水の生成を元気を強める
白朮	脾気を強め水分代謝を調整する
甘草	脾胃の気を強める *緩急止痛 *調和薬性
大棗	脾胃を補う・血を養う *安神作用 *緩和薬性
茯苓	脾を補い水分代謝を整え精神を安定させる
生姜	胃を温めて止嘔する
当帰	血を補う・血流を促し止痛する
竜眼肉	心血を養い精神安定する・脾気を補う
酸棗仁	肝血を補い心神の安定
遠志	心神を安定・痰をとって鬱を除く
木香	脾気を整え気を巡らせて痛み、下痢を止める

<*語句説明>

- *緩急止痛：鎮痙鎮痛作用
- *調和薬性：方剤の諸薬を調和させる作用
- *安神作用：精神を安定させる作用
- *緩和薬性：他薬の激性を和らげる作用

◆解説

黄耆・人參・白朮・甘草・大棗・茯苓・生姜により消化吸収（脾胃）を強め気を補い血の生成と血の漏れを防ぎます。当帰及び竜眼肉は補血薬であり心と肝の血を補います。心血を補う事で酸棗仁・遠志の精神安定作用を強め、肝血を補うことで木香の肝気の巡りを促す作用（疏泄）を強めます。

◆注意点

- 遠志：悪心・嘔吐
- 甘草：偽アルドステロン血症

◆味

甘辛

◆メーカー

ツムラ・コタロー・他多

◆<帰脾湯処方例>

柴犬 太郎 17歳 体重10kg 避妊メス

主訴：認知症

不安症状を伴い夜間は興奮しやすく徘徊、日中は寝てしまうことが多い。貧血気味で、お腹が弱く食欲不振や軟便～下痢を繰り返している。

<処方解説>

太郎は高齢から脾胃の気が不足し水穀からの気血の生成がおぼつかず気血の不足により精神不安や興奮状態が発現している状態です。脾胃の気の不足は食欲低下や下痢などを引き起こし、更に血の不足招くだけでなく活動性も低下させ昼の嗜眠を招きます。活動を担うエネルギーである気は血と共に夜間になると静まりますが肝血の不足があると肝に定まることができ無くなり頭部に虚浮して興奮、不眠、精神不安となってしまいます。この様な個体に帰脾湯は処方されます。

<投薬量目安>

帰脾湯 0.8g TID（ツムラ医療用エキス顆粒1包 = 2.5g）

*投薬量は経験的なものですのでご参考にして頂ければと思います。

<服用法>

長期服用となりますので空腹時の服用は動物にとってストレスになりかねませんので食事や好きな物に混ぜて与える事をお勧めします。

*類似薬に帰脾湯に柴胡と山梔子を加えた加味帰脾湯と言う漢方薬があります。

これは更に興奮やイライラするような個体に処方される薬で柴胡によって肝の機能である気の巡りを促す作用（疏泄）を高め、山梔子は心血の不足から生じる気の昂ぶりを鎮めて合わせて精神安定を作用を高めます。

◆まとめ

中医学では精神は心と肝が大きく関与していると言われていています。心は血脈、肝は蔵血と言う生理作用を有しますが、どちらも血が十分でないとしんも肝も安定せず精神の不調を来します。それ故に飲食物から血を生成する脾の役割が大変重要となります。帰脾湯は脾胃を強める生薬が多く配合されていて気血の生成を高めます。その事により精神安定作用のある酸棗仁・遠志、茯苓の吸収を促し、更に補血薬である当帰及び竜眼肉を配合することで精神の安定を高めます。肝血が十分であれば肝気も巡り易くなり木通の効果によって気鬱を改善します。気が巡れば自ずと血の流れも促され結果的に精神が安定します。

漢方薬は配合された生薬が各々助け合って相乗効果を生み出していきます。

不眠や精神不安を効能に挙げる漢方薬には他にも柴胡加竜骨牡蛎湯、桂枝加竜骨牡蠣湯、抑肝散、抑肝散陳皮半夏、酸棗仁湯、甘麦大棗湯、半夏厚朴湯などが知られていますが、これらの精神安定作用を有する漢方薬にも人參、白朮、茯苓、大棗、

生姜、甘草などの胃腸薬的な生薬いずれかが配合されています。

中医学では心と脾は親子関係にあるとされています。精神を統括するのは心、消化吸收を司るのは脾であり双方どちらかに不調があればその影響をお互いが受けてしまいます。精神を病めば胃腸の不調につながり、逆に胃腸の不調があれば心穏やかでなくなるという関係です。帰脾湯と加味帰脾湯は両薬とも心脾両虚（心血の不足及び脾気の不足）に処方されるもので心と脾の関係を整えてくれます。

処方例をご紹介させて頂きましたが、認知症などでも更に激しい夜間の吠えや易怒、興奮の強い個体に対しては肝気の昂りが主な病因となっている事が多く、その様な個体には肝気を鎮める抑肝散（陳皮半夏）をお勧めします。

脾は上述しました様に統血作用と言う止血作用を有しています。脾気を強める帰脾湯及び加味帰脾湯には犬に対して血小板減少症への効果が認められたと言う報告も頂いております。しかしながら帰脾湯単味での効果については未だどの程度の割合で有効なのかなど不明なところもありますので今後も注目していきたいと思っています。

国内初! 動物用経口ループ利尿薬 犬用トラセミド製剤



動物用医薬品 要指示 指定

ループ利尿薬

アップカード®錠0.75 アップカード®錠3

犬用トラセミド錠

- 0.75mg・3mgの2規格で用量調整が容易
- ベーコンフレーバー錠で嗜好性に配慮
- 割線付き分割錠剤でブリスターのまま処方可能



- 投与回数は1日1回
- 動物用医薬品として「安全性」と「有効性」を確認

販売元



日本全薬工業株式会社
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

製造販売元(輸入発売元)

ベトキノールジャパン株式会社
東京都港区芝大門1丁目1-23

製造先



ベトキノール(フランス)

ニュース & インフォメーション

補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）に関するアンケート

動物愛護・社会福祉委員会

回答病院：91（問いに無記入の方もいます）
未回答：70（アンケート先総数 161 件）

石川、新潟、静岡、神奈川、茨城、千葉、
滋賀、兵庫、広島：広島ハーネスの会）
※同じ県の先生方から、異なる回答も少し
ありましたことお含みおさください

Q 1. 身体障がい者補助犬助成規程施行細則の第
4 条「助成費は補助犬 1 頭に対して年間 2
万円以内とする」と令和 6 年度に年間 1 万
円から 2 万円に増額された事をご存じです
か。当てはまる番号に丸印をお願いします

- 1) 知っている 17 (19%)
- 2) 知らない 74 (81%)

Q 2. 当会の令和 6 年度の助成額 15,000 円です
た。助成金額は、どうでしょうか。
当てはまる 1) ~ 3) 番号に丸印をお願
いします。

- 1) 10,000 円で良かった 3 (2%)
- 2) 15,000 円で良い 54 (59%)
- 3) もっと増額するべき 34 (38%)
いくら位に (5 万：1 人、4 万：2 人、
3 万：4 人、2 万：14 人、2 万 5 千：1 人、
その他：12)

Q 3. 補助犬に対して、行政・県や市区町村の獣
医師会（当会以外）から、治療費に関して
助成金や補助金は、ありますか？当てはま
る番号に丸印をお願いします。

- 1) ない 68 (75%)
- 2) ある 23 (25%)
どの団体からですか（岩手、富山、福井、

Q 4. 上記質問で「ある」と回答された方に質問
です。当てはまる番号に丸印をお願いします。
す。

- 1) 治療費に関して助成金・補助金に、上限が
ある。
上限額を教えてください。
(北海道：5,000 円、富山：15,000 円、神
奈川：45,000 円、茨城：10,000 円、千葉：
30,000 円 (45,000 円)、福井：62,750 円、
兵庫：25,000 円、広島：広島ハーネスの会
より)
- 2) 治療費に関して助成金・補助金に上限がな
い、全額支給
神奈川県横浜市（当委員会の委員よりの情
報提供）

Q 5. 治療費以外の支援に関して、予防関係(フィ
ラリア予防、狂犬病予防注射に関する登録・
注射済み票交付手数料、混合ワクチン注射)
に関しては、ユーザー様の負担は、無償の
ような形の支援がありますか。当てはまる
番号に丸印をお願いします。

- 1) ある 56 (61%)
- 2) ない 35 (39%)

Q 6. 上記質問で「ある」と回答された方に質問です。具体的に教えていただけますか。

【例えば、フィラリア予防、狂犬病予防注射に関する登録・注射済み票交付手数料、混合ワクチン注射は、無償で行い、担当した動物病院に後日、獣医師会より実費が振り込まれる等】

・狂犬病予防注射に関する登録・注射済み票交付手数料：9

〔北海道〕狂犬病予防注射に関する登録料、注射料金、済票、交付手数料

〔関東〕

(千葉) フィラリア予防、狂犬病予防注射に関する登録・注射済み票交付手数料、混合ワクチン注射：無償、フィラリア・混合ワクチンは協賛企業提供

(群馬) 狂犬病ワクチンの諸経費を助成している。後日病院に振り込まれてオーナーに返す

(埼玉) 狂犬病予防注射料金を後日当院へ振込み
〔中部〕

(愛知) 狂犬病予防に関する登録、注射済票交付手数料については行政負担、狂犬病予防注射については無償で行い、担当した動物病院に後日エリアで組織している狂犬病の会より規定の費用が振り込まれる

(山梨) メーカーよりネクスガード、混合ワクチンの提供

(福井) 健康診断(年3回)、狂注、混合ワクチン、フィラリア抗原検査、フィラリア予防薬、ノミダニ駆除剤、について県獣で決めた金額・62750円上限が県健康福祉局から振り込まれる

(新潟) フィラリア予防薬は県獣医師会が支援している。狂犬病・混合ワクチンは無償で行い、病院に後日、獣医師会より振り込まれる。フィラリア予防は、メーカーから支給

〔関西〕

(兵庫) フィラリア予防、狂犬病予防注射に関する登録・注射済み票交付手数料：無償

〔中国四国〕

(島根) 狂犬病予防に関する登録・注射済票交付手数料及び注射・混合ワクチン注射は無償で行い、後日獣医師会より実費が振り込まれる

(広島) 狂犬病予防注射に関する登録・注射済み票交付手数料無償、広島ハーネスの会の援助有

〔九州〕

(福岡) フィラリア・ノミダニ予防薬・ワクチン無償&担当獣医師一頭当たり2,000円振り込まれる

(沖縄) 予防関係の支出で35,000円まで無償

Q 7. 我々の団体の「身体障がい者補助犬助成申請」を使われないユーザーさんが居られますか。当てはまる番号に丸印をお願いします。(※当委員会の事前調査で、申請されている会員動物病院で、申請されるユーザーと申請しないユーザーが居られることがあり、上記の設問をしております。)

- 1) はい (いる) 12 (13%)
- 2) ない (いない) 79 (87%)

Q 8. 上記質問で「はい (いる)」と回答された方に質問です。ユーザーさんにお聞きする質問事項かと思いますが、分かる範囲でご回答ください。当てはまる1)～5)番号に丸印をお願いします。

- 1) 申請が煩雑だから(盲導犬ユーザーは、獣医師や同伴のヘルパーさんに記入のお願いをする必要がある事など) 2
- 2) 申請されない理由がわからない 6
- 3) そのほか(理由がある) 4)

Q 9. 補助犬を診察する中で、リタイアさせるべき時期に来ていると感じたことは、ございますか。

当てはまる番号に丸印をお願いします。

(補足：協会の方で、10年を目安としてリタイアを主導して、第二の犬生を楽しんでもらえるようにしている団体が多いようです。協会によっては、年齢に関係なく毎年チェックに来る協会もあるようです)

- 1) ある 21 (23%)
- 2) ない 70 (77%)

Q10. 当会が取り組む、身体障がい者補助犬助成制度は、役に立っていますか

- 1) はい 86 (95%)
- 2) いいえ 2 ※無記入3人

Q11. 補助犬を診察される中で、一般の診察と比べて、注意されることや問題・課題を感じられることがありますか。良ければご記入頂き教えてください。

補助犬に対して一般の診察に比べ注意されることとしては、

- ・日常の働きが重要であることからなるべく早く仕事復帰ができるよう心掛けている。時に軟便、下痢などは仕事に差し障るため爪、排尿、排便などには注意して診ている。
- ・ユーザー様への配慮としては、(移動が大変だろうという観点から) 往診での診察が中心になる。外来の際は待合室での他の犬や飼い主様とのあり方についてご説明をしたり、検査待ちの間、待合室に移動せず診察室でそのままお待ちいただいたりする。またご説明は筆談や、イメージしやすい話し方を心掛けている。投薬も袋の形状を変える、できるだけ簡単な方法でできるような工夫している。過剰診療にならないよう心掛けている。
- ・診察料に関しても初診料無料、診察費3~4割値引きなどしたり薬代、ワクチン代は原価にしたり極力ご負担にならないように配慮してい

る。

- ・それでも、待合室の込み合う時間帯だとユーザー様にも他の飼い主様にもご迷惑をお掛けすることがあり、予約制にするべきか悩むことがある。他にも試験開腹の必要性の判断やアレルギーなど一生何らかサポートが必要な症例への対応、自宅での投薬の難しさ、協会との調整などに問題や課題を感じる。

補助犬の活躍以外にGPS等を活用するなど環境の整備でもサポートできる世の中になって欲しい。

などの意見があった。

Q12. 当会の補助犬に関する支援に関して、要望等あれば忌憚のないご意見をお書きください。

補助が増額されたのはよいこと。補助犬の診察をする病院の積極的なアナウンスをお願いしたい。

支援の方法を広げて欲しい。例えば、現金支給以外にフードの無償提供をする、中年期以降関節用サプリメントの定期処方をする、予防に関しては金額助成するなどである。また、人畜共通感染症や災害時対応(同行避難)に対して情報提供する。

ユーザーへの振り込み支援より診療の補助金を動物病院へ振り込むシステムにできないか、補助の申請をユーザーが行わない(行えない)場合、動物病院の裁量で申請ができるシステムがあるとよい、という意見があった。

この度は、アンケートへのご記入、大変ありがとうございました。ご協力に対して心より感謝いたします。なお、皆様方から頂きましたアンケートを集計いたしまして、JSAVA NEWSなどに掲載ご報告させていただきます。また、当委員会の活動に反映させていただきます、引き続き宜しくお願い致します。

動物愛護社会福祉委員会 委員会一同

【考察】

この度のアンケート調査は、当会が取り組む身体障がい者補助犬助成事業に対する補助犬を診察頂いている先生方の生の声を聞かせてもらいたいことを大きな目的として取り組みました。

今回のアンケート先は、ユーザーさんが当会の身体障がい者補助犬助成申請を出されている会員病院・161病院への調査でした。91件の回答を頂きました。

身体障がい者補助犬助成規程施行細則の第4条「助成費は補助犬1頭に対して年間2万円以内とする」と令和6年度に年間1万円から2万円に増額された事が、周知されていないことが分かりました。令和6年度は、15,000円助成しました。また、回答者が、増額への期待感、さらなる助成額の増額を願っておられるような傾向が伺えました。令和7年度以降、繰越金の残高等を検討しな

がら増額の検討の余地があるように思いました。また、診察される現場での、様々な問題や課題を抱えながら補助犬に寄り添われている姿が浮き彫りになりました。都道府県の行政側、地方獣医師会の支援や、かかわりに関しても、大きな違いが認められ、今後の補助犬の寄り添いに参考になる回答が多々あったと思います。

また、獣医師側からは、把握できない各協会からの治療費・予防関係の支出に対して、補助・支援も行われているようです。

そして、現在は、身体障がい者補助犬助成規程施行細則では、現役の補助犬への助成に限られておりますが、今後、育成犬、特にリタイア犬等への支援も併せて検討していく必要があると思います。

最後に、重ねて、ご協力頂きました会員の皆様、心より感謝申し上げます、ありがとうございました。

掲載広告募集

JSAVA NEWSに広告を掲載しませんか？
詳しくは、事務局までお問い合わせください。
一般社団法人日本小動物獣医師会事務局
〒105-0004 東京都港区新橋5-12-2 鴻盟社ビル5階
TEL (03)5843-7548 FAX (03)5843-7549

先生は日小獣ホームページに最近アクセスなさいましたか？

4月1日から変更
URL : <https://jsava.org>
ユーザーID : jsava
パスワード : nhsm1971
QRコードからアクセス→



**『会員の声』
原稿募集**

総務委員会では、会員の皆様に誌面作りに参加していただくために『会員の声』のコーナーを設けております。身近な情報、意見などを奮ってご投稿下さい。原稿は4枚前後（1ページ22字×22行）で執筆して下さい。

なお、個人または特定の団体等を中傷する内容等の原稿、また匿名の原稿は受け付けません。

原稿送付先 〒105-0004
東京都港区新橋5-12-2 鴻盟社ビル5階
一般社団法人 日本小動物獣医師会

手術同意書（例）の制作について

獣医事対策委員会

日頃より日本小動物獣医師会にご協力頂き、ありがとうございます。

さて昨年度より、手術の際に受領する同意書の制作を本会顧問弁護士に相談しながら進めてまいりましたが、この度、おおよその形ができましたので本会ホームページに掲載させていただきましたことをご報告いたします。同意書例は全5ページになりますが、一部を紹介させていただきます。詳しくは、本会ホームページをご覧ください。

残念ながら、完璧に効力を持つ同意書は存在しません。あくまでも各病院でトラブルが起こった際、できるだけ法律的に問題のない同意書を紹介させていただきました。今後同意書を見直される

機会がございましたら、この同意書をご参考にしてください。

この同意書のフォーマットのExcelデータは当会のホームページからダウンロードできます。また、今回は、不妊手術の参考説明文を掲載させていただきましたが、他の手術の場合でも、Excelのシートを複製してグレーの網掛けの箇所に当該手術における説明内容を記載すれば、様々なパターンに関する同意書のシートが作成できますので、各病院でのナレッジを蓄積することができるようにしてあります。

各病院において、記載事項をアレンジして頂き、ご活用ください。



スタッフを募集している病院

山梨県

ななすみ動物病院

所在地：中央市布施 1755-1

院長名：佐藤 美幸

担当者名：佐藤、島

TEL：055-274-7733

FAX：055-274-7734

メール：nanasumi2020@gmail.com

募集人数：愛玩動物看護師1名、スタッフ1名

小動物医療機器の パイオニア

株式会社 本郷いわしや

〒113-0033 東京都文京区本郷5丁目2番8号 TEL:03-5800-1848 FAX:03-5800-2225

**創業
75年**

診察台・手術台
ケージ・各種医療機器
開業セミナー・コンサルティング

本郷いわしや

検索

手術同意書ホームページ掲載書式例

例 このフォーマットは、手術の説明兼同意書について一例を示したものです。すべての環境に適合するものではありません。それぞれの環境に合うように変更してご利用ください。

手術に関する説明書兼同意書

〇〇 〇〇 様

年 月 日

名前

〒〇〇〇-〇〇〇〇

手術名 犬の卵巣・子宮摘出手術

〇〇県〇〇市・・・

〇〇動物病院

獣医師 〇〇 〇〇

TEL: 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

1. 手術に関する説明

この手術の目的は、妊娠と発情の防止にあります（子宮だけを取り除いて卵巣を摘出しないと、発情期がなくなります。）。また、子宮蓄膿症や子宮内膜炎、卵巣腫瘍等の予防目的もあります。手術は通常全身麻酔をしながら行います。手術前には麻酔をすることが可能であるか検査を行います。手術前は獣医師の注意を守り準備をしてください。

2. 手術のリスク・デメリット

- ①避妊手術をすると、生殖機能を除去するため、子孫を残すことができなくなります。
- ②当院では、手術前に検査を行い、細心の注意を払って安全に手術を進めます。
しかし、全身麻酔による副反応のリスク（アナフィラキシーショックや呼吸不全等）や、予想外の合併症や偶発的な疾患が判明する可能性はゼロではありません。

3. 注意事項等

- ①運動 術後少なくとも〇日間は、屋外での運動は避けてください。
- ②傷口 傷口は少なくとも1日1度は観察し、化膿等の異常があれば連絡をお願いします
- ③抜糸 術後★日後をめどに、抜糸を行います／抜糸を行う必要はありません。
- ④その他 以下のような事象があれば、ご連絡ください。
 - ・傷口を噛んで傷つける行為がみられる場合、傷口の化膿、腫れ、出血等
 - ・嘔吐がみられる場合
 - ・食事を食べない場合、水を飲まない場合等、異常がみられる場合

4. 手術費用の目安 〇〇円（消費税別）

上記金額はあくまで目安であり、治療経過や症状により金額の変動があり得ます。

私は、上記の説明を受け、理解しました。そのうえで、以下の通り意思を表明します。

- 手術を受けさせることに同意し、貴院にお願いします。
(なお、同意した場合でも、手術前であれば撤回をすることができます)
- 手術を受けさせることは見合わせます。
(なお、上記意思を撤回して手術を受けさせることも可能です)

年 月 日

住所

氏名

新規入会会員 (敬称略)

入会日：令和7年2月1日～令和7年5月31日

所属	氏名	〒・住所	院名	電話
北海道小動物臨床研究会	東條 英智	〒001-0910 札幌市北区新琴似十条 13-7-9	アンディー動物病院	011-769-7550
北海道小動物臨床研究会	島崎 晃	〒060-0002 札幌市中央区北二条西 17-1-11	表参道ペットクリニック	011-642-1001
北海道小動物臨床研究会	上沢 広道	〒069-0803 江別市野幌屯田町 37-28	江別白樺通りアニマル クリニック	011-382-2008
日本小動物獣医師会 千葉県支部	並木 妙子	〒264-0004 千葉市若葉区千城台西 1-12-15	並木動物病院	043-237-3924
神奈川県獣医師会	金子 誠	〒251-0042 藤沢市辻堂新町 1-13-15 メゾンドールU1F	湘南なぎさ動物病院	0466-36-2425
神奈川県獣医師会	堀 英也	〒251-0044 藤沢市辻堂太平台 2-1-2	辻堂犬猫病院	0466-34-2200
静岡県獣医師会	酒井 佑太	〒422-8035 静岡市駿河区宮竹 2-1-1	静岡市夜間救急動物病院	054-269-4199
静岡県獣医師会	野口 英亮	〒424-0038 静岡市清水区西久保 447	清泉どうぶつ病院	054-388-9072
京都府獣医師会 小動物部会	高山 健二	〒601-1375 京都市伏見区醍醐高畑町 68-5 中野第二ビル 1F	たかやま動物病院	075-575-3555
京都府獣医師会 小動物部会	黒岡 雷蔵	〒610-0334 京田辺市田辺中央 1-1-8 アトリオテラス新田辺 1F	ライズ動物病院	0774-34-6111
京都府獣医師会 小動物部会	大槻 孝夫	〒623-0045 綾部市高津町谷尻 21	平和動物診療所	090-4536-6332
兵庫県開業獣医師会	東元 哲彦	〒662-0063 西宮市相生町 4-5	ヒガシアニマルクリニック	0798-72-7055
広島県小動物開業部会	林原 智	〒726-0022 府中市用土町 138-1	林原犬猫医院	0847-46-4546
広島県小動物開業部会	黒瀬 智泰	〒729-0112 福山市神村町 3131-1	おだ動物病院	0849-33-2130
広島県小動物開業部会	野満 大介	〒730-0806 広島市中区西十日市町 10-1-101	ミモザ犬猫クリニック	082-961-5231
個人会員	福井 秀樹	〒065-0017 北海道札幌市東区北七条東 7-2-22	中の道動物病院	011-722-3456
個人会員	小畑 裕	〒125-0042 東京都葛飾区金町 2-29-6 KACビル	金町アニマルクリニック	03-3609-7517
個人会員	菊田 基	〒279-0041 千葉県浦安市堀江 2-29-8	浦安中央動物病院	047-354-0105
個人会員	石渡久美子	〒408-0044 山梨県北杜市小淵沢町 10214-5	小淵沢 IKIGAI ペットセンター	0551-45-8814
準会員・勤務医	出羽 智子	〒286-0113 千葉県成田市南三里塚 328-2	福永動物病院	043-424-9912
準会員・勤務医	大山 結衣	〒274-0063 千葉県船橋市習志野台 5-22-2	ひらの動物病院	047-456-6774
準会員・勤務医	更科明日香	〒080-0027 北海道帯広市西七条南 37-5-12	にれの木動物病院	0155-47-2057

184号にて報告いたしました出羽智子先生の〒・住所、院名、電話の記載が間違えておりました。大変申し訳ありませんでした。

団体会員

所属	〒・住所	電話
山口県獣医師会小動物部会	〒745-0806 山口県周南市桜木 2-12-18 シラナガ動物病院内	0834-28-7800

賛助会員・団体

所属	〒・住所	電話
mappin 株式会社	〒530-0017 大阪府大阪市北区角田町 8-47 阪急グランドビル 26階	050-5530-1302

令和6年度下半期補助犬募金協力病院一覧

平素より、身体障がい者補助犬募金にご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。
 多くの方々のご厚意を賜りましたこと、心からお礼を申し上げます。

【令和6年10月1日～令和7年3月31日】

日付	所在地	病院名および氏名(敬称略)	金額
10月1日	千葉県	よもぎ動物病院/募金	10,281
10月1日	秋田県	うえだ動物病院, 上田かおり/募金	4,927
10月2日	群馬県	中野真/寄付	40,000
10月18日	岐阜県	寺本動物病院	34,750
10月21日	群馬県	いたくら動物病院,板倉修	48,340
10月23日	栃木県	長谷川節子/募金	25,000
11月15日	和歌山県	アイリス動物病院/募金	4,000
11月19日	福岡県	飯塚パル動物病院	60,610
11月26日	北海道	花畔動物病院	41,909
12月4日	兵庫県	飯盛動物病院/募金	10,000
12月10日	新潟県	カタノ動物病院	10,237
12月18日	群馬県	アニマルクリニックアスカ/ 募金	3,369
12月18日	山口県	K-9 PET CLINIC /募金	30,000
12月23日	群馬県	アリス動物病院, 蘭日出哉/募金	23,557
12月23日	群馬県	アリス動物病院, 蘭日出哉/寄付	16,443
12月26日	沖縄県	ホサナ動物病院	16,258
12月26日	佐賀県	富沢動物病院, 富澤雅俊/募金	41,000
12月26日	佐賀県	富沢動物病院, 富澤雅俊/寄付	5,000
12月27日	新潟県	エンジェル動物病院/募金	15,000
1月7日	山形県	やまぐち動物クリニック/ 募金	9,984
1月10日	佐賀県	なかの動物病院/募金	20,000
1月16日	新潟県	いづみ動物病院, 田山いづみ	9,922
1月17日	広島県	宮本動物病院/募金	4,000
1月17日	沖縄県	COCO 動物病院	25,571
1月20日	沖縄県	おもしろ動物クリニック	6,789
1月21日	広島県	K 動物病院,鎌倉祥子/ 募金	34,000
1月24日	岐阜県	つくし動物医院	2,034
1月29日	三重県	すどう動物病院	14,551
1月31日	和歌山県	アイリス動物病院/募金	8,000
2月2日	神奈川県	港南動物病院, 太田雄一郎/募金	27,780
2月7日	栃木県	たかの動物病院/募金	36,223
2月13日	兵庫県	つばきの動物病院, 椿野基広	48,000

日付	所在地	病院名および氏名(敬称略)	金額
2月17日	岐阜県	郡山八幡動物病院/募金	35,881
2月18日	神奈川県	草柳彰利	4,759
2月22日	愛知県	豊橋獣医科病院	15,640
2月25日	宮城県	ぼらべあ動物病院, 中田朋孝/募金	34,155
2月28日	埼玉県	ナカムラ動物病院, 中村誠一	4,812
3月3日	東京都	さくら動物病院/募金	1,442
3月5日	広島県	ますもと動物病院, 増本多喜子	6,956
3月5日	新潟県	さくら動物病院/募金	12,011
3月10日	大阪府	和泉動物病院/募金	12,262
3月10日	岩手県	松園動物病院/募金	8,940
3月10日	栃木県	(有)のぞみ動物病院/募金	13,846
3月10日	広島県	とも動物病院/募金	11,577
3月11日	福井県	大門動物病院, 大門光/募金	21,990
3月11日	兵庫県	みかさ動物病院, 三笠智章/募金	18,255
3月17日	大阪府	アレックス動物病院	5,050
3月17日	兵庫県	ひめ動物クリニック	11,725
3月24日	栃木県	やまびこ動物病院/募金	49,386
3月24日	栃木県	やまびこ動物病院/寄付	614
3月25日	新潟県	坂田動物病院/募金	14,759
3月25日	福島県	かまた動物病院/寄付	15,559
3月26日	千葉県	NALA 動物病院/募金	22,913
3月26日	千葉県	NALA 動物病院/寄付	2,087
3月26日	東京都	梅島動物病院/募金	25,006
3月27日	大阪府	まつした動物病院/募金	30,000
3月28日		事務局募金箱	1,103
3月28日	広島県	(有)松本動物病院, 松本明彦/募金	35,341
3月28日	京都府	りか動物病院/募金	12,866
3月28日	宮城県	もみのき動物病院, 青山文昭	9,577
3月28日	京都府	あづみ動物病院/募金	18,660
3月28日	広島県	(有)松本動物病院, 松本明彦/寄付	100,000
3月31日	広島県	かわもと動物病院/募金	11,000
3月31日	沖縄県	蘭動物病院	15,465
		募 金 金 額	1,271,172

編集後記

JSAVA NEWS 185号の編集会議終了の翌日に、昨年から話題になっている犬の飼育と認知症リスクの関係についての国立環境研所谷口優主任研究員の講演会を聞く機会がありました。多くの方は健康で長生きしたいという希望がありますが、その「健康」という概念を認知症ではない状態、または要介護状態ではないとした切り口からの研究でした。

この研究において、犬との生活で、要介護の前段階のフレイルとなるリスクが20%減、要介護状態になるリスクが45%減、要介護認知症発症リスクが40%減となる結果が得られたとのことでした。要するに、高齢者が犬と生活することで健康に生きていられる期間が長くなるという事です。さらにいえば、健康的に生きていられる期間が長くなるという事は、社会保障費も軽減されるという事です。この研究では、軽減される社会保障費の試算もしていて、その額は4年で5.6兆円、つまり年間1.4兆円にも上るということでした。

最近、保護犬や譲渡犬がブームと言っていいほど人気がありますが、譲渡団体やペットショップ業界は、高齢者が新しく犬を飼育することに抑制的になっています。

この研究を足掛かりにして、高齢者が新しく犬を飼育できる社会にするために、私たち獣医師や動物関連団体は何かができるのかを改めて考えなければならぬと痛切に感じました。

また、年間で1兆円を超える国の負担減となる可能性があるのであれば、高齢者が犬を飼育することに対する支援に公費を支出しても、支出に見合う軽減効果があると感じました。10年後、今より格段に高齢者が動物を飼育しやす

い社会となっている事を夢見ながら、獣医師である私たちは本当に社会的使命をおびていることを実感しました。

(チタン噛めん)

今年も暑い夏になりそうです。フィラリア予防、ノミ・ダニの駆除に留意しなければいけない時期ですが、最近はノミ・ダニの駆除の方が注目度が大きくなっている気がします。

「外飼いの場合、2年間予防をしなければ、100%感染する」と断言していた犬のフィラリアも、予防薬の普及により、5年以上予防しなくても感染していないことが多くなっています。血液検査においても、何年もマイクロフィラリアを見ていない状況にありました。ついつい油断勝ちになりますが、突然、フィラリア症の重症例に遭遇し、血液にも密度の高いマイクロフィラリアを目にします。本当に忘れたころ、何年かぶりに診察するフィラリア症は、重篤な症状、多数のフィラリア寄生という症例です。全体的には、絶滅を期待できるくらい減っていても、一旦マイクロフィラリアが血中に存在しだすと、その個体と蚊により感染を繰り返し、症状としては以前と変わりません。フィラリア症が飼い主さんの意識からは慣れ、末期的に悪化するまで気が付かれないのかと推測します。

近年、マダニによる感染症SFTSが話題になっていますが、私に住む地域でも人、猫共に感染が報告されています。猫においては、市街地での感染報告もあります。犬のバベシア症は、10年位前までは、地域的に分布がありませんでしたが、イノシシの生息域の拡大とともに、市街地でも発症があるようになりました。ここ2年間は、豚熱の流行により、イノシシは激減しましたが、ダニからの感染症は増えていると感じています。

鯉恋



JSAVA NEWS No.185

編集発行 一般社団法人日本小動物獣医師会

〒105-0004 東京都港区新橋5-12-2 鴻盟社ビル5階

TEL (03) 5843-7548 FAX (03) 5843-7549

印刷 株式会社 文洋社

消化器ケア 加水分解フード(低脂肪)



美味しく適切な
栄養を供給



加水分解タンパク質(魚) を使用した低脂肪*療法食 新発売

*給与時平均分析値 7.0%

使用に際しては獣医師の診察と指導が必要な製品です

販売業者 日本全薬工業株式会社 〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1
www.Farina.com/jp | ☎ お客様相談室 0120-726-722



獣医師専用の療法食



trovan®

Made in Germany

大切な家族を守るために トロバン社のマイクロチップ

トロバン社：【信頼と実績】

1989年創業。RFID識別の先駆的メーカーで、動物用マイクロチップ市場においては世界で最も多く使用されているブランドです。

trovanマイクロチップは高い信頼性で世界の主要動物園、大手の製薬会社の治験などで数多くご利用いただいています。

もちろんコンパニオン・アニマルにも。trovanはアメリカン・ケネルクラブ(AKC)の正規マイクロチップとして採用され、イヌネコに広く利用されています。



アメリカン・ケネルクラブ

trovan トロバン

【1810】動物用マイクロチップ ISO型ミニ(1.4)

実物大

単回使用の穿刺針に
おさめられています

¥990(税込)/個



【1814】インプランターIM-200(1.4)

ミニ(1.4)用で、
繰り返して使用できます
※別売

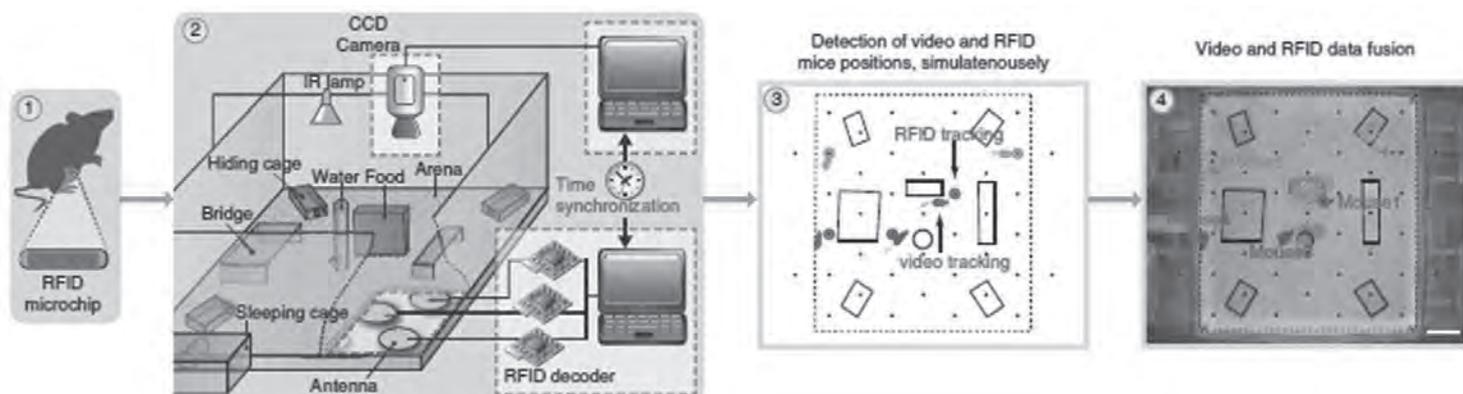


trovan®

～トロバンのもう一つの顔～

下記は実験動物のアプリケーションですが、トロバンは治験動物のRFIDとして、世界の多くの製薬会社で用いられています。

マウスの体重測定システムも開発されています



お問合せ：

サージ ミヤワキ株式会社 東京都品川区東五反田1-19-2 Tel: 03-3449-3711

